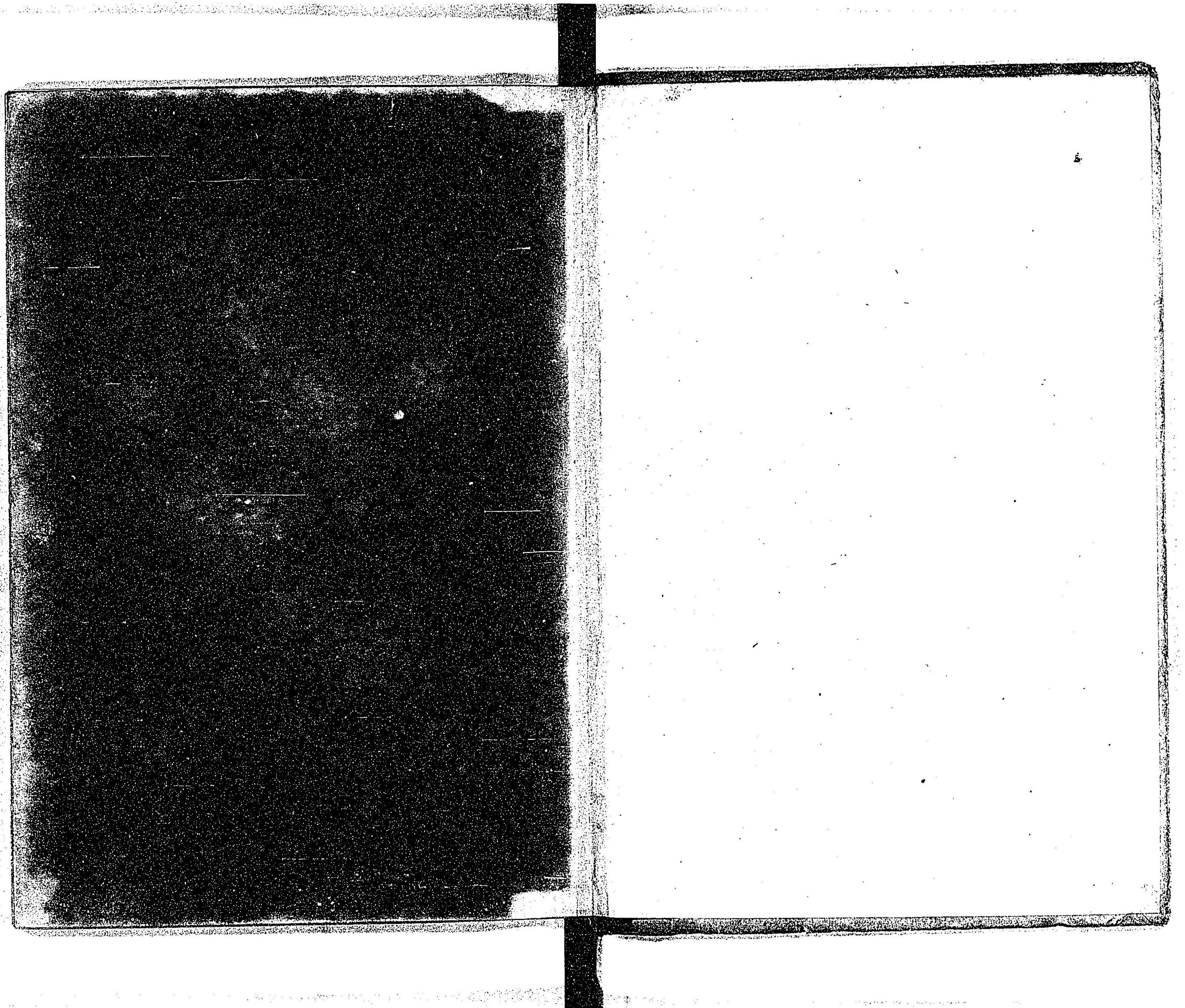


55  
3  
22

宗勝三郎編輯

日本刑法法寺古備考

明治十五年四月印行



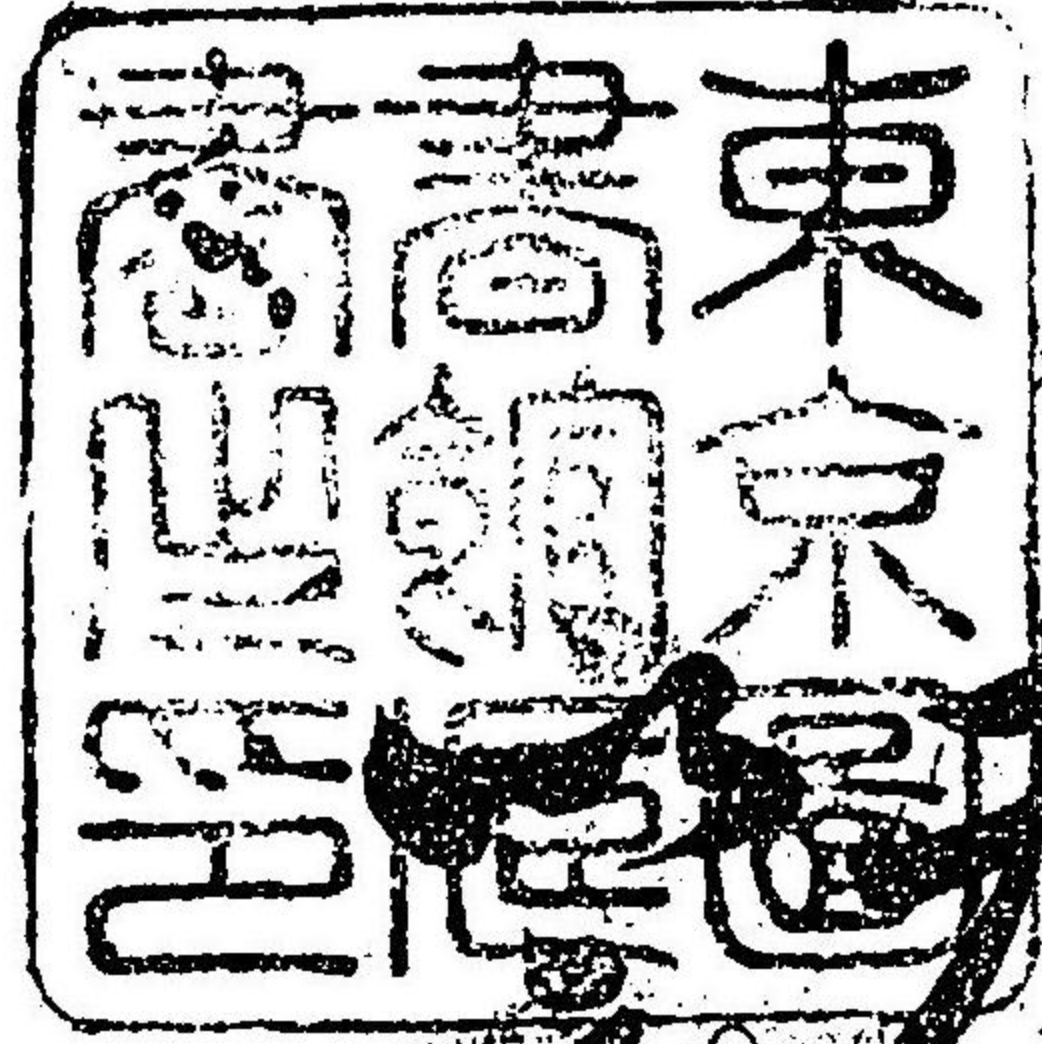
持14  
493

宗勝三郎編輯

日本刑法  
治罪法  
寺本備考

明治十五年四月印行

c2  
711  
0174



序  
霜得後  
大行究  
日月星  
為定  
細於  
施道

更定點於以者長  
而有以念流呈益  
研究可心知了報  
轉自如之極力有平  
法律規則而可以改

定用於事上既據定  
在行中出之者也  
多特法仔規畫益博  
識了得心知其用  
自然之理予予定上

帝乃為造江怪物皆  
兩割為奇事亦其  
人以為多怪其非  
奇怪則素志于源  
田者也其為行在

小龍善刻舟為念  
水則空下得某千  
快釋主何能功解  
其疑悉于故位物而  
為負其重其而為心

將多博後研究  
而七等上為子右見于  
此法之編行日本  
刑法治罪法特傳備  
考一書曰年以是書者

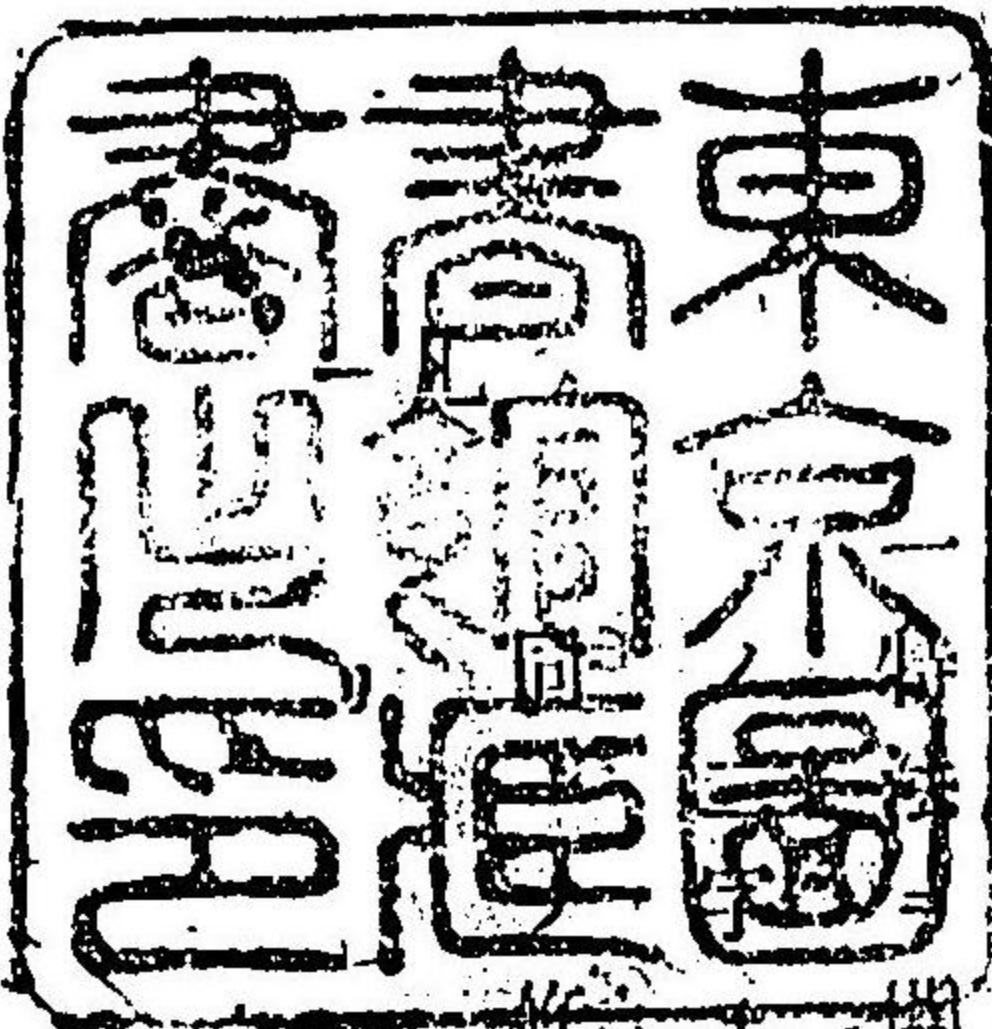
萃一類法之編行傳  
附與之書一所有遺余  
也用之者佳且之細  
而所能各識于學了旨  
乃題之于心為序

明治十五年五月二十二日  
法律第二十號

凡例

一 此書ハ刑法治罪法ニ關スル特法即チ新法實施ニ就テノ布告布達及  
ヒ達チ蒐集シ散播チ搜索スルノ煩勞ヲ省クノ用ニ供スルモノナリ  
故ニ特法ノ本文ハ勿論參考ニ掲クル刑法治罪法ノ本條ト雖モ違警  
罪ノ條項ヲ除クノ外ハ一切辨毫ヲ加ヘサルノミナラス特法ニシテ  
既ニ増減更改若クハ消滅ニ屬シタルモノモ尙ホ採録ス  
一卷中ヲ分テ四款トシ款又分テ節トナス其第一款ハ布告第二款ハ太  
政官達第三款ハ布達第四款ハ司法省達トシ其節ハ一令又ハ一達ノ  
課項トス而シテ每款節其發令番号ノ順序ニ從フテ列載ス

關係ヲ有スル刑法治罪法ノ本條ハ其特法條章ノ次項ニ參看  
冠シ且ツ括弧ノ内ニ治又ハ刑ノ字ヲ挿填シテ之ヲ掲ク但  
條章ニシテ數項ニ重出スルモノ、如キハ或ハ省略スル所ア





二凡 一特法ノ互ニ相關係スルモノ及ヒ既ニ増減更改若クハ消滅ニ屬スルモノハ各齣頭ニ其由ヲ略記ス

日本刑法特法備考目錄

第一款 布告

第一節	第四十四号	違警罪ノ審判手續ハ當分便宜取計フヲ得ルノ件
第二節	第四十五号	公訴私訴ニ係ル控訴上告證人呼出費用等被定件
第三節	第四十六号	書類送達其他六件
第四節	第四十七号	刑事裁判所ニ於テ被告人ヲ責付スルノ手續被定件
第五節	第四十八号	違警罪裁判當分三府五港ノ市區外ハ警察署分署ニ於スル件
第六節	第五十三号	裁判所ノ位置管轄ノ區畫被定件
第七節	第五十四号	輕罪ノ豫審ヲ要セサルモノハ治安裁判所ニ於テ裁判スルノ件
第八節	第五十五号	治罪法中陪席判事補充判事當分裁判所長ノ指定ニ任スルノ件

二目

第九節	第五十六号	小笠原島裁判事務當分
第十節	第五十七号	東京府出張所ニ被屬件
第十一節	第五十九号	伊豆七島裁判事務刑事輕罪民事百圓以上ノ外島吏ニ被任件
第十二節	第六十二号	豫審判事ヨリ引致シタル被告人ハ夜間ニ限リ留置場ニ入件
第十三節	第六十四号	府縣廳ノ條規ニ違フ者處分規則被廢止ノ件
第十四節	第六十五号	刑法違警罪中賣淫處分ハ當分從前ノ通り各地方ニ被委任件
第十五節	第六十七号	商船内犯罪取扱規則被制定件
第十六節	第七十一号	刑法附則被制定件
第十七節	第七十二号	治安裁判所ニテ輕罪裁判ヲ開クニ警部檢事ノ職務ヲ可代理件
第十八節	第七十三号	刑法施行ニ付法律規則中處斷法被制定件
		治罪法中無能力者代人民事擔當人ト稱スル者解釋ノ件

三目

第十九節	第七十四号	治罪法中刑事ノ控訴ニ關スル件當分實施セサル件
第二十節	第七十六号	裁判所名稱區畫表中始審ノ行中消除合併セラレル件
第二十一節	第七十七号	總テノ輕罪ヲ裁判スル治安裁判所ノ件
第二十二節	第七十八号	重罪裁判所ノ管轄被定件
第二十三節	第七十九号	北海道并沖繩縣ハ當分其管廳ニ於テ裁判事務執行ノ件
第二十四節	第八十号	違警罪ハ當分警察署又ハ分署ニ於テ裁判スヘキ件
第二十五節	第八十一号	刑法中新舊法比照例ノ件
第二十六節	第八十二号	大審院裁判所ニ於テ審理中ノ刑事治罪手續ノ件
第二十七節	第八十三号	治安裁判所始審裁判所權限被制定件
第二款	太政官達	

四目

- 第一節 第七十七号 地方ニ於テ定メタル  
違警罪目届出方ノ件
- 第二節 第八十一号 監獄則  
被定件
- 第三節 第八十二号 司法官吏巡查兵員ヲ要求  
使用スル手續ヲ被定件
- 第四節 第八十六号 大審院裁判所公廷取締ノ使  
用ニ供スル巡查爲詰方ノ件
- 第三款 布達
- 第一節 司法省甲第五号 司法警察上時宜ニヨリ巡查  
ヲ警部ノ代理トナスヘキ件
- 第二節 司法省甲第七号 裁判言渡ノ謄本等ヲ  
求ムル費用上納ノ件
- 第三節 司法省甲第八号 所屬代言人規  
則被定件
- 第四節 太政官第二号 各裁判所名稱  
心得方ノ件
- 第四款 司法省達

五目

- 第一節 丙第十二号 違警罪管轄ニ付警察署分署ノ  
所在名稱等可届出離形ノ件
- 第二節 丙第十三号 司法警察上時宜ニヨリ巡查  
ヲ警部ノ代理ト爲シ不苦件
- 第三節 丁第十六号 裁判所順  
序被定件
- 第四節 丁第十八号 書記局其他訟庭等  
常務心得被定件
- 第五節 丁第廿一号 判事檢事書記印章  
離形及彫刻方ノ件
- 第六節 丙第十五号 像審判事檢證等急ヲ要スル時  
直ニ巡查ヲ同行スル等達方件
- 第七節 丙第十六号 犯人證人等實印ナキ者ニ限リ  
慣例ニヨリ捺印セシムヘキ件
- 第八節 丁第廿三号 丙第十五号達裁  
判所ニ達ノ件
- 第九節 丁第廿五号 治罪法中罰金科料  
等徵收手續ノ件
- 第十節 丁第廿六号 使丁規則  
被定件

六目

- 第十一節 丁第廿七号 治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開時ノ名稱及印章押用方件
- 第十二節 丁第廿八号 送達書呼出召喚勾引拘留收監狀及ト宜誓書式ノ件
- 第十三節 丙第十七号 司法警察官ニ於テ發スル令狀ノ件
- 第十四節 丁第廿九号 郡區長ニ往復スル公文ハ裁判所名ヲ用ヘキ件
- 第十五節 丁第三十号 裁判所印章雛形及ト彫刻届出方ノ件
- 第十六節 丁第卅一号 裁判言渡ノ騰本等ヲ求ムル者無資力ナレハ無代價可下渡件
- 第十七節 丙第十九号 違警罪事件表既決犯罪表式及ヒ調成差出方ノ件
- 第十八節 丙第二十号 逃走ノ既決因ニ對シ發スル令狀ハ始審檢事ヨリ發スヘキ件
- 第十九節 丁第卅三号 刑事裁判言渡ヲ犯人ノ本籍ニ通知方等ノ件
- 第二十節 丁第卅四号 既決未決事件表及ヒ既決犯罪表式被定ノ件

日本刑法特法備考

第一款 布告

第一節 第四十四号 明治十四年九月二十日

違警罪ノ審判ニ關スル一切ノ手續ハ治罪法ニ從フヘシト雖モ實際己ムヲ得サル場合ニ於テハ當分ノ内便宜取計ヲヒ其裁判言渡ニ付テハ總テ上訴ヲ許サス此旨布告候事

參看(治)第三百二十一條 違警罪裁判所ニ於テハ左ノ條件ニ因テ公

訴ヲ受理ス

一 檢察官ノ請求ニ因リ書記局ヨリ被告人ニ對シ發シタル呼出狀

二 豫審判事又ハ上等裁判所ノ判決ニ因リ其事件ヲ移スノ言渡

一 第三百二十二條 呼出狀ニハ呼出ヲ受ク可キ者ノ氏名職業

○第一款 第一節

住所出廷ノ日時被告事件及ヒ代人ヲシテ出廷セシムルヲ得可キ旨ヲ記載ス可シ若シ被告事件ノ記載ナキ場合ニ於テ被告人未タ其証人ヲ呼出サ、ル時ハ公廷ニテ其事件ノ告知ヲ受ケタル後其呼出及ヒ辯護ノ爲メ二日ノ猶預ヲ求ムルヲ得

第三百二十三條 呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ二日ノ猶預アル可シ

第三百二十四條 違警罪裁判官ハ被告事件急速ヲ要スル時ハ公判ニ取掛ル前檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ對手人ノ立會ヲ要セス、テ檢証處分ヲ爲スヲ得

第三百二十五條 證人ハ呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ

又呼出ヲ受ケスシテ出廷シタル者ト雖モ訊問前其名刺ヲ書記ニ差出シタル時ハ裁判所ニ於テ證人トシテ其陳述ヲ聽クヲ得

第三百二十六條 書記ハ各事件毎ニ訴訟關係人ノ氏名ヲ呼立ツ可シ若シ其呼立ニ應セサル時ハ他ノ事件ノ裁判ヲ終リタル後其事件ヲ裁判ス可シ

第三百二十七條 違警罪裁判官ハ最初ニ被告人ノ氏名年齢身分職業住所出生ノ地ヲ問フ可シ  
官吏ノ作リタル調書又ハ申立書アル時ハ書記之ヲ朗讀ス可シ

檢察官ハ被告事件ヲ陳述ス可シ

第三百二十八條 違警罪裁判官ハ被告人ニ被告事件ヲ承認スルヤ否ヲ訊問ス可シ

○第一款 第一節

四

若シ被告人代人ヲ以テ白狀ヲ爲ス時ハ其署名捺印シタル書面ヲ差出ス可シ

第三百二十九條 被告人ノ白狀アリタル時ハ他ノ證據ヲ差出スニ及ハス但裁判所ニ於テハ檢察官民事原告人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ差出サシムルヲ得

若シ白狀ナキ時ハ原被ノ証人ヲ訊問シ其他証憑アル時ハ之ヲ差出ス可シ

第三百三十條 檢察官ハ法律ノ適用ニ付キ意見ヲ陳述ス可シ

民事原告人ハ被害事件ヲ証明シ及ヒ要償ニ付意見ヲ陳述ス可シ

被告人民事擔當人又ハ其代人ハ答辨ヲ爲ス可シ

第三百三十一條 呼出ヲ受ケタル被告人民事擔當人又ハ其

代人出廷セサル時ハ檢察官及ヒ民事原告人ノ請求スル所ヲ聽キ闕席裁判ヲ爲ス可シ

民事原告人出廷セサル時亦同シ

第三百三十二條 闕席裁判言渡書ハ檢察官其他訴訟關係人

ノ請求ニ因リ闕席シタル者又ハ其住所ニ之ヲ送達ス可シ

闕席裁判ヲ受ケタル者故障ヲ爲サントスル時ハ言渡書ノ

送達アリタルヨリ三日内ニ其申立書ヲ書記局ニ差出ス可シ

シ

第三百三十三條 裁判所ニ於テハ先ツ故障ノ申立ヲ受理ス可キヤ否ヲ判決ス可シ若シ受理ス可キ者ト判決シタル時ハ書記ヨリ故障アリタルヲ及ヒ其事件ヲ公判ニ付ス可キ日時ヲ故障ノ對手人ニ通知スル爲メ呼出狀ヲ送達ス可シ但其送達ト出廷トノ間少クモ二日ノ猶豫アル可シ

五

○第一款 第一節

六

又公判ニ付ス可キ日時ヲ其前日ニ故障ノ申立人ニ報知ス可シ

第三百三十四條 故障ノ申立ヲ受理シタル場合ニ於テハ第三百二十六條ヨリ第三百三十條マテノ規則ニ從ヒ更ニ裁判ヲ爲ス可シ

其裁判ニ闕席シタル者ハ故障ヲ爲ス可キ得ス

第三百三十五條 犯罪ノ證據充分ナラサル時ハ裁判所ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲ス可シ

又第二百二十四條第三以下ノ場合ニ於テハ免訴ノ言渡ヲ爲ス可シ

第三百三十六條 被告事件違警罪ニシテ且證據充分ナル時ハ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲ス可シ

第三百三十七條 被告事件重罪又ハ輕罪ナル時ハ管轄違ノ

言渡ヲ爲シ其事件ヲ輕罪裁判所檢事ニ送致ス可シ但被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルヲ得

第二節 第四十五号 明治十四年九月二十日

公訴私訴ニ係ル控訴上告及ヒ證人呼出費用等ノ儀當分左ノ通相定候條此旨布告候事

訴訟費用ノ  
第一節第一款第  
十一節第四  
章ヲ參照ス  
ヘシ

刑事裁判所ノ裁判言渡ニ對シ訴訟關係人ヨリ控訴又ハ上告ヲ爲ス者アル時ハ原裁判所ニ於テ其訴訟費用ノ金額ヲ算定シテ之ヲ預納セシムヘシ若シ預納スルコト能ハサル時ハ控訴又ハ上告ヲ爲スヲ許サス

裁判所權限  
ノ第一節第一款  
第二十七節  
ヲ參照スヘ

七

參看(治)第三百三十八條 違警罪裁判所ノ裁判言渡ニ對シテハ左ノ

區別ニ從ヒ輕罪裁判所ニ控訴スルヲ得

一 被告人ハ拘留ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル時

二 民事原告人被告人及ヒ民事擔當人ハ要償ニ付テノ言渡

○第一款 第二節

民事上治安裁判所ノ終審ノ金額ヲ超過シタル時

三 檢察官其他訴訟關係人ハ上ニ記載シタル原由アラサル時ト雖モ管轄違越權擬律ノ錯誤又ハ無効ノ記載アル規則ニ背キタル時

第三百六十五條 檢察官其他訴訟關係人ハ左ノ區別ニ從ヒ輕罪裁判所ノ裁判言渡ニ對シテ控訴裁判所ニ控訴スルコトヲ得

一 檢察官ハ無罪免訴又ハ刑ノ言渡アリタル時

但違警罪事件トシテ言渡アリタル場合ニ於テハ其事件ヲ輕罪ナリトスル時

二 被告人ハ違警罪ニ付テノ言渡ヲ除クノ外刑ノ言渡ヲ受ケタル時

三 民事原告人被告人及ヒ民事擔當人ハ要償ニ付テノ言渡

民事上始審裁判所ノ終審ノ金額ヲ超過シタル時

四 檢察官其他訴訟關係人ハ管轄違越權擬律ノ錯誤又ハ無効ノ記載アル規則ニ背キタル時

第三百七十一條 檢察官其他訴訟關係人ハ輕罪裁判所ノ終審ノ對審裁判言渡及ヒ控訴裁判所ノ對審裁判言渡ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ得

第四百三條 檢察官其他訴訟關係人ハ重罪裁判所ノ對審裁判言渡ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ得

預審又ハ公判ニ付證人ヲ呼出サント請フ者アル時ハ裁判所ニ於テ其旅費日當等ノ金額ヲ算定シテ預納セシムヘシ  
參看(治)第九十條 證人ハ即時ニ出廷ニ付テノ旅費日當ヲ要ムルコトヲ得

若シ日稼ヲ以テ生業スル者ナル時ハ旅費日當ノ外日稼高

○第一款 第二節



ニ等シキ償金ヲ要ムルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ豫審判事其金額ヲ定メ之ヲ言渡ス可

第二百八十九條 證人ハ左ノ順序ニ從ヒ訊問ス可シ

一 檢察官ノ請求ニ因リ呼出シタル證人

二 民事原告人ノ請求ニ因リ呼出シタル證人

三 被告人及ヒ民事擔當人ノ請求ニ因リ呼出シタル證人

若シ被告人旅費日當ヲ預納スルノ資力ナキ時ハ治罪法第七十條ノ制限ニ從ヒ裁判所ニ於テ其費用ヲ立替置クヘシ

參看(治)第七十條 預審判事ハ檢事民事原告人又ハ被告人ヨリ證

人トシテ指名シタル者ヲ呼出ス可シ

原告證人被告證人ノ員數夥多ナル時ハ指名ノ順序ニ從ヒ

又ハ最モ事實ヲ知ル可シト思料シタル者輕罪事件ニ付テ

ハ各五名重罪事件ニ付テハ各十名ヲ限リ先ツ之ヲ呼出ス

可シ但事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ此限ニ在ラス

又原被ノ指名セサル者ト雖モ預審判事ノ職權ヲ以テ證人

トシテ之ヲ呼出スヲ得

第三節 第四十六号 明治十四年 九月二十日

書類送達ニ付キ治罪法第二十四條ノ制限有之候ヘトモ當分ノ内ハ不

及其儀候事

參看(治)第二十四條 休暇ノ日及ヒ日出前日没後ハ書類ノ送達ヲ爲

ス可カラズ此規則ニ背キタル時ハ其送達ノ効ナカル可シ

但本人承諾シテ其送達ヲ受ケタル時ハ此限ニ在ラス

治罪法第四十條ニ犯罪ノ地ヲ以テ裁判管轄ト規定有之候處當分ノ内

犯罪ノ地分明ナル被告人ト雖モ管轄裁判所ヨリ囑託アリタル時ハ其

被告人逮捕ノ地裁判所之ヲ管轄スヘシ

〇第一款 第三節

參看(治)第四十條 同等ノ裁判所ニ於テハ犯罪ノ地ノ裁判所ヲ以テ  
預審及ヒ公判ノ管轄ナリトス

犯罪ノ地分明ナラサル時ハ被告人逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以  
テ其管轄ナリトス

治罪法第七十三條第二項ニ陪席判事四名ニ有之候ヘトモ當分ノ内ニ  
名ト相定候事

參看(治)第七十三條 重罪裁判所ハ左ノ職員ヲ以テ裁判ヲ爲ス可シ

一 裁判長一名但控訴裁判所長ヨリ其裁判所判事中ニテ之  
ヲ命ス

二 陪席判事四名但控訴裁判所ニ於テ開ク時ハ裁判所長ヨ  
リ其裁判所判事中ニテ之ヲ命シ始審裁判所ニ於テ開ク  
時ハ其裁判所長及ヒ先任ノ判事ヲ以テ之ニ充ツ

治罪法第一百一條ニ准現行犯ノ場合刑記有之候處其舉動犯人ト思料ス

ヘキ者アル時ハ當分ノ内現行犯ニ准シ處分スルコトヲ得

參看(治)第一百一條 重罪輕罪ニ付キ左ノ場合ハ現行犯ニ准ス

一 犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラル、時

二 兇器贓物其他犯人ト思料ス可キ物件ヲ携帯シタル時

三 家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ又ハ其犯人ト

思料ス可キ者ヲ逮捕スル爲メ戶主ヨリ官吏ニ其處分ヲ

求メタル時

治罪法第三百三十三條第三項ニ家宅搜索ノ制限有之候ヘトモ芝居人寄

席飲食店湯屋遊船宿待合茶屋ノ類ハ日出前日没後ト雖モ其營業ヲ爲

ス時間又旅籠屋貸座敷ハ日出前日没後ニ拘ハラヌ搜索致シ苦シカラ

ス

參看(治)第三百三十三條 令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查ハ被告人其家

宅若シハ他人ノ家宅ニ潛匿シタリト思料シタル時ハ其地

○第一款 第三節

ノ戸長又其差支アル時ハ隣佑二名以上ノ立會ヲ求メ之ヲ  
搜索ス可シ

巡査ハ被告人ヲ發見シタルト否トニ拘ハラス搜索調書ヲ  
作り立會人ト共ニ署名捺印ス可シ

家宅搜索ハ日出前日没後之ヲ爲スヲ得ス

治罪法第六十八條第七十二條ニ於テ治安判事ニ囑託スルヲ得  
シタル處分ハ當分ノ内其地ノ司法警察官ニモ囑託スルヲ得

參看(治)第六十八條 預審判事ハ其管轄地内ト雖モ時宜ニ因リ臨

檢家宅搜索ノ事ヲ其地ノ治安判事ニ囑託スルヲ得

第七十二條 預審判事ハ證人裁判所々在ノ地ニ住セサル

時ハ其住所ノ地ノ治安判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルヲ得

若シ證人管轄地外ニ在ル時ハ其所在ノ地ノ預審判事又ハ

治安判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルヲ得

本條ノ場合ニ於テ呼出狀ハ囑託ヲ受ケタル判事ノ名ヲ以  
テ其裁判所ノ書記局ヨリ之ヲ送達ス可シ

治罪法第二百五條第一項但書ニ司法警察官ハ令狀ヲ發スルヲ得サ  
ル旨記載有之候ヘトモ當分ノ内現行犯ノ場合ニ限り令狀ヲ發シ苦シ  
カラス

參看(治)第二百五條 第二百三條ニ於テ檢事ニ許シタル職務ハ司法

警察官モ亦假ニ之ヲ行フヲ得但令狀ヲ發スルヲ得ス

司法警察官ハ証憑書類ニ意見書ヲ添ヘ被告人ト共ニ速ニ  
之ヲ檢事ニ送致ス可シ

右布告候事

第四節 第四十七号 明治十四年  
九月二十日

五一 啓候事

刑事裁判所ニ於テ被告人ヲ責付スルニハ左ノ手續ニ從フヘシ此旨布

○第一款 第四節 第五節

參看(治)第二百十九條 預審判事ハ保釋ノ請求アルト否トヲ問ハス

檢事ノ意見ヲ聽キ被告人ヲ其親屬又ハ故舊ニ責付スルヲ

ヲ得

第一條 被告人ヲ責付スルニハ親屬又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出

應シ出廷セシムヘキノ証書ヲ其裁判所書記局ニ差出サシムヘシ

第二條 責付中被告人ヲ呼出ス時ハ出廷ヨリ二十四時前ニ其通知ヲ

爲スヘシ

第三條 被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出廷セサル時ハ檢事

ノ意見ヲ聽キ責付ヲ取消スヘシ

第五節 第四十八号 明治十四年九月二十日

刑法治罪法中違警罪裁判ノ儀ハ當分三府五港ノ市區ヲ除クノ外府縣

警察署又ハ警察分署ニテ裁判可致候條此旨布告候事

參看(治)第三十一條 通常刑事ノ裁判權ハ民事ノ裁判權ト同一ノ裁

第八十号布告ニヨリ消滅第一款第二十四節參照スヘシ

判所ニ屬ス

第三十八條 犯罪ノ種類ニ因リ裁判管轄ヲ定ムルノ左ノ如

シ

一 違警罪ハ違輕罪裁判所

二 輕罪ハ輕罪裁判所

三 重罪ハ重罪裁判所

重罪及ヒ輕罪又ハ輕罪及ヒ違警罪ニ付同時ニ同一ノ被告

人ニ對シ訴アリタル時ハ附帶ノ犯罪ニ非スト雖モ上等ノ

裁判所併セテ之ヲ管轄ス

第四十九條 治安裁判所ハ違警罪裁判所トシテ其管轄地内

ニ於テ犯シタル違警罪ヲ裁判ス

第六節 第五十三号 明治十四年十月六日

○第一款 第五節 第六節

第一條第二  
十節第二十  
三節參照ス  
八

一 各裁判所ノ位置及管轄ノ區畫別表ノ通改正ニ明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事  
參看(治)第三十二條 裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ區畫ハ司法卿ノ奏請ニ因リ上裁ヲ以テ之ヲ定ム

裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ區劃

大		控訴始	審治	安府	縣國	名	區	郡	名
東京		東京	日本橋區	東京府	武藏	日本橋區	京橋區	內	
品川	本所區	本郷區	芝區	四谷區	麹町區	淺草區	下谷區	神田區	內
						北豐島區	本所區	內	南足立
						南葛飾	內	南葛飾	內
						南豐島	內	南豐島	內
						赤阪區	東多摩	南豐島	內
						荏原	內	荏原	內
						麻布區	荏原	內	南豐島
						本郷區	小石川區	神田區	內
						北豐島	內		
						本所區	內	深川區	南葛飾
						芝區	內	荏原	內

裁										訴													
濱松		靜岡			前橋			熊谷		浦和		濱松		靜岡			前橋			熊谷		浦和	
掛川	濱松	沼津	下田	靜岡	本田	高崎	前橋	大宮	熊谷	浦和	掛川	濱松	靜岡	下田	靜岡	前橋	熊谷	浦和	掛川	濱松	靜岡	下田	靜岡
遠江		駿河			上野			武藏		下野		遠江		駿河			上野			武藏		下野	
城東佐野榛原		駿東富士			東群馬			秩父		北足立		城東佐野榛原		駿東富士			東群馬			北足立		北埼玉	
		引佐藤玉濱名			多胡吾妻			新田山田邑樂		新田山田邑樂		新田山田邑樂		多胡吾妻			東群馬			北埼玉		北埼玉	
		山名周智豐田磐田長上敷知			新田山田邑樂			新田山田邑樂		新田山田邑樂		新田山田邑樂		多胡吾妻			東群馬			北埼玉		北埼玉	
		君澤田方加茂ノ内			新田山田邑樂			新田山田邑樂		新田山田邑樂		新田山田邑樂		多胡吾妻			東群馬			北埼玉		北埼玉	
		伊豆			新田山田邑樂			新田山田邑樂		新田山田邑樂		新田山田邑樂		多胡吾妻			東群馬			北埼玉		北埼玉	
		伊豆			新田山田邑樂			新田山田邑樂		新田山田邑樂		新田山田邑樂		多胡吾妻			東群馬			北埼玉		北埼玉	
		伊豆			新田山田邑樂			新田山田邑樂		新田山田邑樂		新田山田邑樂		多胡吾妻			東群馬			北埼玉		北埼玉	
		伊豆			新田山田邑樂			新田山田邑樂		新田山田邑樂		新田山田邑樂		多胡吾妻			東群馬			北埼玉		北埼玉	

控										京																				
宇都宮		土浦			水戸			木更津		千葉		横濱		宇都宮			土浦			水戸			木更津		千葉		横濱			
宇都宮	宇都宮	下妻	土浦	水戸	水戸	水戸	木更津	千葉	千葉	千葉	八日市場	千葉	横濱	小田原	八王子	宇都宮	宇都宮	土浦	土浦	水戸	水戸	木更津	千葉	千葉	千葉	千葉	横濱	小田原		
下野		常陸			常陸			安房		上野		下野		武藏			相模			武藏			相模		武藏		相模		武藏	
河内		北相馬			西茨城			天羽		海上		下野		津久井			足柄上			北相馬			下野		武藏		相模		武藏	
河内		北相馬			西茨城			天羽		海上		下野		津久井			足柄上			北相馬			下野		武藏		相模		武藏	
河内		北相馬			西茨城			天羽		海上		下野		津久井			足柄上			北相馬			下野		武藏		相模		武藏	
河内		北相馬			西茨城			天羽		海上		下野		津久井			足柄上			北相馬			下野		武藏		相模		武藏	
河内		北相馬			西茨城			天羽		海上		下野		津久井			足柄上			北相馬			下野		武藏		相模		武藏	
河内		北相馬			西茨城			天羽		海上		下野		津久井			足柄上			北相馬			下野		武藏		相模		武藏	
河内		北相馬			西茨城			天羽		海上		下野		津久井			足柄上			北相馬			下野		武藏		相模		武藏	
河内		北相馬			西茨城			天羽		海上		下野		津久井			足柄上			北相馬			下野		武藏		相模		武藏	

		所														
京都	下上	相川	高田		長岡			新發田		新瀉						
			糸魚川	高田	六日助	柏崎	長岡	村上	新發田							
京都府		新瀉縣	新瀉縣		新瀉縣			新瀉縣		新瀉縣						
山城		佐渡	越後		越後			越後		越後						
宇治ノ内		全國三郡	西頸城	東頸城	南魚沼	刈羽ノ内	古志	北魚沼	三島	刈羽ノ内	岩船	北蒲原	新瀉區	西蒲原	中蒲原	南蒲原
下京區			愛宕ノ内	葛野ノ内	上京區	愛宕ノ内	葛野ノ内									

判																					
上田	岩村田	上田	長野		松本				甲府		甲府										
			飯山	長野	福島	大町	上諏訪	飯田	松本	谷村											
長野縣		長野縣		長野縣				山梨縣		甲府											
信濃		信濃		信濃				甲斐		斐											
北	南	佐久	小縣	埴科ノ内	更級ノ内	下高井	上水内ノ内	下水内	西筑摩ノ内	東筑摩ノ内	上伊那ノ内	諏訪	北安曇ノ内	南安曇ノ内	上伊那ノ内	西筑摩ノ内	東筑摩ノ内	北	南	中	巨摩

控											
福井	彦根		大津		津山	岡山			洲本	豐岡	
福井	敦賀	彦根	小濱	大津	津山	高梁	玉島	岡山	洲本	豐岡	
福井縣	福井縣	滋賀縣	福井縣	滋賀縣	岡山縣		岡山縣		兵庫縣	兵庫縣	
越前	越前	近江	若狹	近江	美作	備前		備前	淡路	山馬	
南條今立丹生吉田阪井足羽	三方敦賀	神崎愛智犬上阪田伊香西淺井	遠敷大飯	滋賀野洲甲賀栗太蒲生高島	全國十二郡	上房阿賀哲多川上		小田後月下道窪屋淺口	備前岡山區全國八郡 加勢宇都	全國二郡	全國八郡

大											
阪											
姫路	神戸			宮津	園部		大阪			伏見	
姫路	篠山	明石	神戸	宮津	福知山	園部	大王寺	中之島	本	田	見
兵庫縣	兵庫縣			京都府	京都府		大阪府				
播磨	丹波	播磨	攝津	丹後	丹波	河内	攝津	攝津	攝津		
多可加西白南神東神西飾東 飾西佐用宍粟揖東揖西赤穂	多紀水上	明石美濃加東加古	神戸區八郡菟原武庫川邊有馬	全國五郡	天田何鹿	船井南桑田北	西區北區ノ内西成ノ内	東區南區ノ内北區ノ内西成ノ内 讚良一東成ノ内島上島下能勢豐島	西區北區ノ内西成ノ内	乙訓紀伊久世相樂綴喜 宇治ノ内	



審														
所														
名古屋		宇和島		松山			高松		中村	高知	脇町	徳島	田邊	和歌山
一ノ宮	名古屋	宇和島	大洲	西條	松山	丸龜	高松	中村	高知	脇町	徳島	田邊	和歌山	
愛知縣	愛知縣	愛媛縣	愛媛縣	愛媛縣	愛媛縣	愛媛縣	愛媛縣	高知縣	高知縣	徳島縣	徳島縣	和歌山縣	和歌山縣	
尾張	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	讚岐	讚岐	土佐	土佐	阿波	阿波	紀伊	紀伊	
丹羽 葉栗 中島	知多 愛知ノ内	名古屋區 愛知ノ内	東南北 宇和	喜多 西宇和	宇摩 新居 周布 桑村 越智	野間 久米 風早 下浮穴 和氣 伊豫 温泉	小豆 大内 寒川 三木 山田 香川 阿野ノ内	那珂 多度 三野 豐田 鶴足 阿野ノ内	安藝 香美 長岡 土佐 吾川 高岡	美馬 三好 麻植 阿波	名東 名西 勝浦 那賀 海部 板野	日高 西牟婁	和歌山區 伊都 那賀 名草 海部 有田	

判												
裁												
奈良		堺		七尾		富山		金澤				大野
五條	奈良	堺	輪島	七尾	魚津	富山	高岡	小松	金澤			大野
大阪府	大阪府	大阪府	石川縣	石川縣	石川縣	石川縣	越中	越中	加賀			
大和	和泉	和泉	能登	能登	越中	越中	越中	加賀	加賀			
葛下ノ内	字智吉野 葛上忍海 高市ノ内	廣瀬 宇陀 高市ノ内 葛下ノ内	添上 添下山 邊平 群式上 式下 十市	大縣 安宿 志紀ノ内 丹北 丹南 八上古市 石川 綿部	珠洲 鳳至	鹿島 羽咋	下新川	上新川 婦負 射水ノ内 礪波ノ内 庄川以東	射水ノ内 礪波ノ内 庄川以西	能美 江沼	金澤區 河北 石川	大野

		廣島控訴裁判所									
長崎	島原	西鄉	鳥取	米子	濱田	松江		山口			尾道
		西鄉	鳥取	米子	濱田	今市	松江	萩	赤間關	山口	尾道
長崎縣		島根縣	鳥取縣	島根縣	島根縣	山口縣			廣島縣		
肥前		隱岐	因幡	伯耆	石見	出雲	長門	周防	長門	周防	備後
南高來		全國四郡	全國八郡	全國六郡	全國六郡	神門 出雲 備後 飯石	大原 意宇 能義 秋鹿 島根 仁多	赤間關 厚狹 豐浦	大津 阿武 見島	熊毛 大島 玖珂	美禰 佐波 吉敷
長崎區 北高來 東彼杵 西彼杵ノ内		從調 甲奴 世羅 深津 品治 沼隈 芦田 安那 神石									

		名古屋控訴裁判所									
廣島	三次	高山	岐阜		山田	安濃津		岡崎			
		高山	御嵩	大垣	岐阜	山田	四日市	安濃津	豐橋	岡崎	愛知縣
廣島縣		岐阜縣	岐阜縣		三重縣	三重縣					
安藝	備後	飛彈	美濃	美濃	伊勢	伊勢	伊勢	紀伊	三河		
高田	三谿 奴可 三七 三次 惠蘇	大野 吉城 益田ノ内	賀茂 可兒 土岐 惠那	海西 石津 多藝 才破 本巢 席田 安八 池田 大野	厚見 羽栗 各務 中島 方野 山縣 武儀 郡上 益田ノ内	多氣 度會 答志 英虞	全國四郡	桑名 員部 朝明 三重	河曲 鈴鹿 庵登 安濃 飯高 一志 飯野 南北 牟婁	八名 北 設樂 室飯 深美	額田 碧海 幡豆 東加茂 西加茂

所判裁													
宮崎			鹿兒島			天草		熊本		中津			
延岡	都城	宮崎	大島	水引	鹿兒島	大草	八代	山鹿	熊本	豆田	中津		
鹿兒島縣			鹿兒島縣			熊本縣		熊本縣		大分縣			
日向			薩摩			肥後		肥後		豐前			
臼杵			大隅			天草		求麻		下毛			
宮崎 兒湯 諸縣ノ内 那珂ノ内			薩摩 高城 伊佐 甌島 日置ノ内 出水			鹿兒島 日置ノ内 預娃 街宿 川邊 谷山 阿多 給黎		熊本區 飽田 託摩 宇土 合志 益城 阿蘇		山鹿 山本 菊池 玉名		八代 葦北	

訴控崎長											
大分			福岡			嚴原		福江		佐賀	
杵築	竹田	佐伯	小倉	久留米	福岡	嚴原	福江	平戸	唐津	佐賀	佐賀
大分縣			福岡縣			長崎縣		長崎縣		長崎縣	
豐後			筑前			對馬		肥前		肥前	
直入 大野ノ内			全國十郡			全國二郡		北松浦		東松浦	
南海部 北海部ノ内 大野ノ内 速見ノ内			企救 田川 京都 中津 筑城 上毛			福岡區 席田 粕屋 宗像 穗波 早良 嘉麻 上座 下座 夜須 御笠 志摩 怡土 那珂		南松浦 西彼杵ノ内		西松浦	
東國東 速見ノ内			遠賀 鞍手			全國十郡		全國二郡		基肄 養父 三根 神崎 佐賀 小城 杵島	

院										
控 館 函			所 判 裁							
函 館			大 曲	秋 田			盤 井	盛 岡		酒 田
福 山	江 刺	函 館	大 曲	此 代	本 庄	秋 田	盤 井	宮 古	盛 岡	酒 田
開 拓 使			秋 田 縣	秋 田 縣			岩 手 縣	岩 手 縣		山 形 縣
渡 島	後 志	渡 島	羽 後	羽 後	羽 後		陸 前	陸 中	陸 前	羽 前
松 前	久 遠	檜 山	仙 北	山 本	川 邊		氣 山	東 南	東 北	鮑 海
函 館 區 龜 田 上 磯 茅 部			平 鹿	北 秋 田	南 秋 田		鷹 澤	關 伊	九 戸	西 閉 伊
			雄 勝				江 東		紫 波	稗 貫

宮 城 控 訴											
山 形		米 澤	若 松	平	白 川	福 島		仙 臺			
新 庄	山 形	米 澤	若 松	平	白 川	中 村	福 島	大 河 原	石 卷	古 川	仙 臺
山 形 縣		山 形 縣	福 島 縣	福 島 縣	福 島 縣	福 島 縣		宮 城 縣			
羽 前		羽 前	越 後	磐 城	磐 城	磐 城	磐 城	陸 前	陸 前		
最 上	東 北	東 西	東 浦 原	磐 前	岩 瀨	字 多 行 方	田 村 內	柴 田	志 田	仙 臺 區 宮 城 名 取 黑 川	
南 北 村 山		置 賜	那 麻 河 沼	檜 葉 菊 田	安 積 內	信 夫 安 達 伊 達		伊 具 亘 理	加 美 玉 造 栗 原 遠 田		
			大 沼 安 積 內	標 葉 田 村 內				桃 生 牡 鹿 登 米 本 吉			

所 判 裁 訴			
八戸	弘前	壽都	後志 島牧壽都歌棄磯谷
八戸	弘前	壽都	
八戸	青森	陸奥	西中南津輕
八戸	青森	陸奥	
青森縣	陸奥	東津輕	北津輕
陸奥	東津輕	東津輕	
三戸	三戸	三戸	三戸

第一款第二十一節參照スヘシ

第七節 第五十四号 明治十四年十月六日

刑法治罪法實施ノ儀布告候ニ付テハ當分ノ内輕罪ニシテ檢察官ニ於テ豫審ヲ要セスト見込ムモノニ限リ始審裁判所々在ノ地ヲ除ク外治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キ其裁判ヲ爲スコトヲ得ヘシ此旨布告候事

但本文ノ場合ニ於テ訟廷内治罪ノ手續ハ便宜可取計且其手續上ニ付テハ上訴ヲ許サス

參看(治)第五十四條 始審裁判所ハ輕罪裁判所トシテ其管轄地内ニ

於テ犯シタル輕罪ヲ裁判ス

又重罪及ヒ輕罪ノ預審ヲ行フ

又其管轄地内ノ違警罪裁判所ノ始審ノ裁判ニ對スル控訴ヲ裁判ス

第百七條 檢事犯罪ノ搜查ヲ終リタル時ハ左ノ手續ヲ爲ス

○第一款 第七節

可シ

一 重罪ト思料シタル事件ニ付テハ預審判事ニ預審ヲ求ム可シ

二 輕罪ト思料シタル事件ニ付テハ其輕重難易ニ從ヒ預審ヲ求メ又ハ直テニ輕罪裁判所ニ其訴ヲ爲ス可シ

三 違警罪ト思量シタル事件ニ付テハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ違警罪裁判所檢察官ニ送致ス可シ

四 被告人ノ身分犯罪ノ種類又ハ場所ニ因リ其管轄ニ屬セサル者ト思料シタル事件ニ付テハ之ヲ管轄裁判所檢察官ニ送致ス可シ

被告事件罪ト爲ラス又ハ公訴受理ス可カラサル者ト思料シタル時ハ起訴ノ手續ヲ爲ス可カラス

第三百五十二條 檢察官ハ裁判長ヨリ被告人ノ氏名年齢職

業住所及ヒ出生ノ地ヲ問ヒタル後被告事件ヲ陳述ス可シ  
民事原告人ハ被害事件ヲ證明ス可シ

調書又ハ申立書アル時ハ書記ヲシテ之ヲ朗讀セシメ次ニ  
原被証人ノ陳述ヲ聽キ且證據物件ヲ被告人ニ示シ辯解ヲ  
爲サシム可シ

被告人及ヒ民事擔當人ハ答辯ヲ爲ス可シ

第三百五十三條 檢察官ハ法律ノ適用ニ付キ其意見ヲ陳述  
ス可シ

民事原告人ハ要償ニ付キ其意見ヲ陳述ス可シ  
被告人及ヒ民事擔當人ハ更ニ答辯ヲ爲スヲ得

第三百五十四條 罰金ノ刑ニ該ル可キ被告人又ハ第二百六  
十九條ノ規則ニ從ヒ闕席裁判ヲ爲スヲ得可キ被告人其  
呼出ノ日時ニ出廷セサル時ハ闕席裁判ヲ爲ス可シ

○第一款 第七節 第八節

第三百五十五條 闕席裁判ニ關スル第三百三十一條ヨリ第三百三十四條マテノ規則ハ此章ニモ亦之ヲ適用ス

第三百五十七條 裁判所ニ於テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ新ナル証人ヲ呼出シ鑑定人ヲ命シ若クハ臨檢ヲ爲スヲ得但是等ノ處分ヲ爲スニ付テハ第三編第三章ニ定メタル規則ニ從フ

又預審ヲ經サル事件ニ付テハ預審判事ヲシテ其指示スル所ノ條件ニ付キ取調ヲ爲シ且其報告書ヲ差出サシムルヲ得

第八節 第五十五号 明治十四年十月六日

治罪法第七十三條末文陪席判事第七十九條第二項補充判事ノ儀當分其裁判所長又ハ院長ノ臨時指定スル所ニ任シ候條此旨布告候事

參看(治)第七十三條 重罪裁判所ハ左ノ職員ヲ以テ裁判ヲ爲ス可シ

一 裁判所長一名但控訴裁判所長ヨリ其裁判所判事中ニテ之ヲ命ス

二 陪席判事四名但控訴裁判所ニ於テ開ク時ハ裁判所長ヨリ其裁判所判事中ニテ之ヲ命シ始審裁判所ニ於テ開ク時ハ其裁判所長及ヒ先任ノ判事ヲ以テ之ニ充ツ

第七十九條 刑事局判事ノ職務ハ司法卿ノ奏請ニ因リ其院判事ニ之ヲ命ス

判事差支アル時ハ民事局判事授任ノ順序ニ從ヒ其職務ヲ行フ

第九節 第五十六号 明治十四年十月七日

九三 小笠原島裁判事務當分東京府出張所ニ於テ治安裁判所(即チ違警罪裁判所)始審裁判所(即チ輕罪裁判所)ノ權限ヲ以テ裁判セシメ民事控訴

第一款 ○第九節 第十節 第十一節

○四 及重罪裁判ハ東京控訴裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但該島ニ於テ治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

第十節 第五十七号 明治十四年十月七日

伊豆七島裁判事務當分該島吏ニ民事ハ百圓以下及勸解并ニ刑事ハ違警罪ノ裁判ヲ委任シ民事百圓以上刑事輕罪以上ハ東京始審裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但該島ニ於テ裁判治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

第十一節 第五十九号 明治十四年十月八日

治罪法中預審判事勾引狀ヲ發シ勾引セシメタル被告人ハ時宜ニ依リ其訊問期限四十八時間ニ在ル夜間ニ限リ裁判所又ハ最寄警察署留置場ニ入置クヘシ此旨布告候事

參看(治)第二百二十二條 勾引狀執行ノ命ヲ受ケタル者ハ其令狀ヲ發シ

タル預審判事ニ被告人ヲ引致ス可シ

勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時内ニ之ヲ訊問

ス可シ其時間ヲ經過スル時ハ勾留狀ヲ發スルニ非サレハ

當然之ヲ釋放ス可シ

第十二節 第六十二号 明治十四年(司法卿)十二月六日(連署)

明治十年(一月)第十三号布告府縣廳ノ條規ニ違犯スル者處分規則ノ儀

ハ明治十五年一月一日ヨリ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

第十三節 第六十四号 明治十四年(司法卿)十二月九日(連署)

密賣淫ノ儀ハ刑法第四百二十五條第十項ニ明文有之候ヘトモ當分ノ内其取締懲罰ハ従前ノ通東京ハ警視廳其他ハ地方官ニ委任ス  
右奉 勅旨布告候事

一四

參看(刑)第四百二十五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以

○第一款 第十二節 第十三節 第十四節



下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十 密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者

第十四節 第六十五号 明治十四年十月農商務司法

二月十五日兩卿連署

商船内犯罪取扱規則別紙ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

參看(治)第四十六條 商船内ノ犯罪ニ付テノ管轄及ヒ訴訟手續ハ別

ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

商船内犯罪取扱規則

第一條 何人タリトモ商船内ニ於テ重罪輕罪アルヲ認知シ又ハ重

罪輕罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ船長ニ告訴告發ヲ爲スヲ得

第二條 船長告訴告發ヲ受ケタル時又ハ重罪輕罪ノ現行犯アルヲ

知リタル時ハ其事件ニ付假ニ訊問檢証ノ處分ヲ爲シ且証憑及ヒ事

實參考ト爲ルヘキ事物ヲ集取シ調書ヲ作ルヘシ但調書ヲ作ルヲ能

ハサル時ハ第三條ニ記載シタル官吏ニ其申立ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ立會人二名以上アルヲ要ス

第三條 船長ハ証憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ取纏メ被告人ト

共ニ該船碇泊又ハ着港ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ引渡スヘシ若

シ外國ノ港埠ニ着シタル時ハ其地駐劄ノ領事ニ之ヲ引渡スヘシ

第十五節 第六十七号 明治十四年十月司法卿

二月十九日連署

刑法附則別冊ノ通相定メ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右奉 勅旨布告候事

參看(刑)第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細目ハ別ニ

規則ヲ以テ之ヲ定ム

刑法附則目錄

第一章 主刑執行

○第一款 第十五節

第二章 監視

第三章 假出獄及ヒ特別監視

第四章 刑事裁判費用

第五章 賠償處分

刑法附則

第一章 主刑執行

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ典獄刑場ニ立

會獄司ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行ス可キヲ告示シタル後獄丁ヲシテ  
之ヲ執行セシム但其期限ハ午前十時前トス

參看刑第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄

内ニ於テ之ヲ行フ

第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フコ

ヲ得ス

第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關スル者ノ外刑

場ニ入ルコトヲ許サス但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第三條 死刑ノ執行畢リタル時ハ書記其始末書ヲ作り立會ヲ爲シタ

ル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ム可シ

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁ス

元始祭

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

仁孝天皇祭

神武天皇祭

六月大祓

秋季皇靈祭

○第一款 第十五節

六四

神宮神嘗祭

天長節

後桃園天皇祭

新嘗祭

光格天皇祭

十二月大祓

參看(刑)第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁ス

第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懐胎ト申スル者ハ醫師及ヒ穩婆ヲシテ之ヲ検査セシメ果シテ懐胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上申シテ其執行ヲ停メ産後一百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ命令ヲ受ケ決行スヘシ

參看(刑)第十五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懐胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハス

第六條 死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊請フ者アル時ハ典獄之ヲ許可シ下付スルコトヲ得

參看(刑)第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレハ之ヲ下付ス但式ヲ用ヒテ葬ルコトヲ許サス

第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時ニテモ典獄ノ許可ヲ得テ其親屬故舊ニ接見スルコトヲ得

第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齢職業住所及ヒ其罰狀刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公告ス可シ

刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前

犯罪ノ地

犯人住居ノ地

七四

第九條 徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ監獄管理長官ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發船ノ地ニ護送ス可シ

○第一款 第十五節

參看(刑)第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分ク島地ニ發遣シ定役ニ服

有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第十八條 徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス内地ノ懲役場ニ於

テ定役ニ服ス

第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分ク島地ノ獄ニ幽閉シ定役

ニ服セス

有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第十條 徒刑ノ囚ハ嶋地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ

ヲ得

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント諸フ者ハ

典獄之ヲ許ス可シ

第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ内務司法兩

卿ニ上申シ其許可ヲ受ク可シ

參看(刑)第二十一條 無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ

以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限り居住セシムルヲ得

有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同シ

第十三條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免セ

ラレタル者家屬ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許スヲ得但其路

費ハ自ラ之ヲ辨スシ

參看(刑)第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ

悛改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ

處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スヲ得

無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同シ

流刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スルノ外假出獄ノ

例ヲ用ヒス

○第一款 第十五節

第五十四條 徒刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サル、ト雖モ仍ホ  
島地ニ居住セシム

第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限リ居住セシムル者ハ監獄近傍ノ  
地ヲ限リ典獄ノ監督ヲ受ケシム若シ己ムヲ得サル事故アル時ハ  
典獄ニ請フテ限外ニ出ルヲ得

參看(刑)第二十一條 無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ  
以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限リ居住セシムルヲ得  
有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同シ

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ本  
刑期限内ト雖モ嶋地ニ於テ直ニ其刑ヲ執行ス可シ

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ  
得

參看(刑)第二十二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十

歳ニ滿ル者ハ第十九條ノ例ニ從フ

重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下

トス

第二十四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ服シ輕

禁錮ハ定役ニ服セス

禁錮ハ重輕ヲ分タス十一日以上五年以下ト爲シ仍ホ各本

條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第十七條 禁獄輕禁錮ノ囚獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ

獄司之ヲ許ス可シ

參看(刑)第二十三條 禁獄ハ内地ノ獄ニ内レ定役ニ服セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下

ト爲ス

第十八條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期百

〇第一款 第十五節

日以内ハ工錢ヲ給與セス

第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及ヒ領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ

參看(刑)第二十五條

定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス但現役百日以内ハ給與ノ限ニ在ラス

第二十條

罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未ダ納完セサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ之ヲ懲収セス附加ノ罰金ニ於ル亦同シ

參看(刑)第二十七條

罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム

若シ限内納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮

ニ換フ其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計等ス

罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求ニ

因リ裁判官之ヲ命ス但禁錮ノ期限ハ二年ニ過クルヲ得

ス

若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ禁錮ヲ免ス親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタル時亦同シ

第三十條

科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ第二十七條ノ例ニ照シテ之ヲ拘留ニ換フ

第二章 監視

第二十一條

監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス

第二十二條

監視ニ付ス可キ者ハ預メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時典獄ヨリ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ監視ヲ執行セシム主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止テ監視ニ付スル者

ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ警察所ニ護送ス可シ

參看(刑)第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス主刑

ノ期滿免除ヲ得タル時ハ其捕ニ就キタル日ヨリ起算ス

若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ其裁判確定ノ

日ヨリ起算ス

第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起算滿期ヲ記載

シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附ス可シ

第二十四條 犯人ノ住居遠地ニ在テ一日程ヲ過クル者ハ典獄若クハ

檢察官ヨリ先ツ最近ノ警察所ニ護送シ其警察所ヨリ住居ノ地ノ警

察所ニ送致ス可シ

第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其

里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ犯人到着ノ日直チニ之ヲ

其地ノ警察所ニ差出サシム但途中事故アリテ淹滞シタル時ハ第三

十一條ノ例ニ從フ可シ

犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ其地ノ警察所

ニ遞送ス可シ

第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期限間遵守ス可

キ條件ヲ讀聞カセ監視ノ票ヲ下付ス可シ

第二十七條 監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可

シ

一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出

シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ己ムヲ得サル事故アリテ

警察所ニ到ルヲ能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サス

三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ

受ク可シ

六五

擅ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サス若シ己ムヲ得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受ク可シ

第二十八條 監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルヲアル可シ

第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルヲ許シタル時ハ其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ遞送ス可シ

第三十條 他ノ地方ニ旅行スルヲ許シタル時ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滯留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與ス可シ

犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來リ直チニ旅券ヲ警察所ニ還納ス可シ

第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタル時ハ事由

ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ證書ヲ受ケ歸着ノ日旅券ニ添ヘ警察所ニ差出ス可シ

第三十二條 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間監獄中ノ別房ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸着スル資力ナキ者亦同シ

第三十三條 監獄中ノ別房ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ住居ノ地ニ歸着スル資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシム可シ

第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付ス可キ時又ハ監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ス可キ時ハ并ニ主刑滿限ノ前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行ス可シ

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ス可シ

〇第一款 第十五節

七五



八五

第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ遵守シ悛改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其實情ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

參看(刑)第四十一條 監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移スル時ハ第二十七條第三及ヒ第二十九條ノ例ニ從フ可シ

第三章 假出獄及ヒ特別監視

第三十八條 假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレノコトヲ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受ク可シ

參看(刑)第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ遵守シ悛改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ヲ

處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同シ

流刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スルノ外假出獄ノ

例ヲ用ヒス

第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ獄司ヨリ其証票ヲ犯人ニ下付ス可シ

第二款第二節第二十七條

參照スヘ

第四十條 假出獄証票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

- 一 本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日
- 二 殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事
- 三 假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事
- 四 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事

九五

參看(刑)第五十六條 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直チニ

○第一款 第十五節

出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルヲ得ス

第四十一條 重罪ノ刑ニ處ビテシタル者假出獄中自ラ財産ヲ治メ若

クハ職業ヲ營マントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

參看刑第五十五條 假出獄ヲ許サレタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ治

産ノ禁ノ幾分ヲ免ズルヲ得但本刑期限内特別ニ定メタ

ル監視ニ付ス

第四十二條 假出獄ヲ許ス可キ者ハ預メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日

獄司ヨリ其証票ノ謄本ヲ添ヘ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ

特別監視ヲ執行セシム可シ

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四條第二十五

條第二十六條第二十九條第三十一條ノ例ヲ適用ス

第四十條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス

可シ

一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表示シ監視ノ票

ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムヲ得サル事故ア

リテ警察所ニ到ルヲ能ハサル時ハ其事由ヲ届出可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サス

三 事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ

受ク可シ但他ノ府縣ニ轉移スルヲ許サス

四 往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルヲ許サス

第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢

スルヲアル可シ

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日ニ至レハ假出獄証

票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨリ証票ヲ出シタル典獄ニ遞送ス可

シ

主刑滿限ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナル時ハ警察所ニ於テ第二章ノ

〇第一款 第十五節

例ニ從テ處分ス可シ

第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ監獄中ノ別房ニ留置ス可シ

第四章 刑事裁判費用

第四十八條 預審公判ニ付キ呼出シタル證人醫師鑑定人通辯人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿料及ヒ第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用トス

參看治第九十條 證人ハ即時ニ出廷ニ付テノ旅費日當ヲ要ムルヲ得

若シ日稼ヲ以テ生業トスル者ナル時ハ旅費日當ノ外日稼高ニ等シキ償金ヲ要ムルヲ得

本條ノ場合ニ於テハ預審判事其金額ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ

第二百條 鑑定人及ヒ通事ニハ旅費給料其他相當ノ費用ヲ給

與ス可シ

第四十九條 日當旅費及ヒ止宿料ノ金額左ノ如シ

日當五拾錢

旅費一里拾錢

止宿料一宿貳拾五錢

住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ及ヒ呼出ノ地ニ滯在中ハ日當並ニ止宿料ヲ給ス其三里未滿ノ地ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ給セス

第五十條 證人ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ請求アルニ非サレハ之ヲ給與セス

第五十一條 證人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法第九十條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外若干ノ償金ヲ給スルヲアル可シ

第五十二條 解剖舍密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル翻譯料ノ類

○第一款 第十五節

四六

ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與ス可シ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未ダ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人  
身死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徴収ス

參看(刑)第四十五條 刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科  
ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

[治]第三百七條 被告人刑ノ言渡ヲ受ケタル時ハ裁判所ノ職權  
ヲ以テ公訴裁判費用ノ全部又ハ幾分ヲ擔當ス可キノ言渡  
ヲ爲ス可シ

免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テ公訴裁判費用ハ  
官ニテ之ヲ擔當ス可シ

私訴裁判費用ハ民事ノ規則ニ從ヒ敗訴シタル者之ヲ擔當  
ス可シ

第五章 賠償處分

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害者ノ請求ニ因リ還  
給セシムル者トス

參看(刑)第四十八條 裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請  
求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルヲ得若シ贓物  
犯人ノ手ニアル時ハ請求ナシト雖モ直チニ之ヲ被害者ニ  
還付ス

第五十五條 贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ由リ買取シタル  
物品ハ其公商若シハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直チニ  
還給セシムルヲ得ス

若シ公商ニ由ラスシテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ムヲ得ス但  
其買取者ハ賣者ニ對シ轉價ヲ求ムルヲ得

第五十六條 贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者其贓物現在スル  
時ハ還給ヲ拒ムヲ得ス但典物トシテ受取タル者ハ典主ニ對シ轉

○第一款 第十五節

五六

償ヲ求ムルヲ得

第五十七條 贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ルト否トテ區別シ  
第五十五條ノ例ニ從テ處分ス可シ

第五十八條 贓物己ニ費用シタル時又ハ識別ス可カラザル時又ハ其  
所在ノ知レサル時ハ損害ノ賠償ヲ請求スルヲ得

第五十九條 人ノ名譽若シハ殺傷ニ關シタル損害其他犯罪ノ爲メ現  
ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スルヲ得但失火ハ此限ニ在ラス  
第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル刑事裁判所ニ  
請求スルヲ得若シ其審判己ニ終リタル後ハ民事裁判所ニ非サレ  
ハ之ヲ請求スルヲ得ス

參看(治)第四條 私訴ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラズ公訴ニ附帶シテ刑  
事裁判所ニ之ヲ爲スヲ得但法律ニ於テ其裁判所ニ私訴  
ヲ爲スヲ許サ、ル場合ハ此限ニ在ラス

又私訴ハ別ニ民事裁判所ニ之ヲ爲スヲ得

第七條 民事裁判所ニ私訴ヲ爲シタル時ハ檢察官ノ起訴ア  
ルニ非サレハ願下ヲ爲シ更ニ刑事裁判所ニ其訴ヲ爲スヲ  
得ス

刑事裁判所ニ私訴ヲ爲シタル時ハ被告人ノ承諾ヲ得テ願  
下ヲ爲シ更ニ民事裁判所ニ其訴ヲ爲スヲ得

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求スル者  
ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スヲ得其民事裁判所ニ請求  
スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從フ可シ

第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル時ハ其相續人ニ對  
シ之ヲ要求スルヲ得

第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠償セ  
サル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルヲ

○第一款 第十五節 第十六節 第十七節

ヲ得

第十六節 第七十一号 明治十四年十月二十八日 (司法卿) 連署

第一款第七節 參照スヘシ

治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開ク時ハ當分ノ内其所在ノ地警部ヲシテ檢事ノ職務ヲ代理セシム

右奉 勅旨布告候事

參看(治)第五十八條 輕罪裁判所檢察官ノ職務ハ始審裁判所檢事又

ハ其指名シタル檢事補之ヲ行フ

第十七節 第七十二号 明治十四年十月二十八日 (司法卿) 連署

第一款第二十五節 參照スヘシ

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行候ニ付法律規則中罰例ニ係ルモノハ左ノ例ニ照シテ處斷スヘシ

第一條 凡懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第二條 凡禁獄及ヒ禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

參看(刑)第二十四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ服シ輕

禁錮ハ定役ニ服セス

禁錮ハ重輕ヲ分クス十一日以上五年以下ト爲シ仍ホ各本

條ニ於テ其長短ヲ區別ス

第二十八條 拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セズ其刑期ハ

一日以上十日以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別

ス

第三條 凡罰金及ヒ科料ハ二圓以上ヲ罰金ニ處シ二圓未満ヲ五錢以

上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條 法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ヒ

答可申付トアルハ總テ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

參看(刑)第二十六條 罰金ハ二圓以上ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多

寡ヲ區別ス

○第一款 第十七節

第二十九條 科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

參看(刑)第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十二條 先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

第九十三條 先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ但一年内再ヒ其違警罪裁判所ノ管轄地内ニ於テ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第九十四條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ之

ヲ論スルコトヲ得ス

第九十五條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス罰金科料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラス各之ヲ徵收ス

第九十六條 陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ非常律ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第九十七條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第九十八條 三犯以上ノ者ト雖モ其加重ノ法ハ再犯ノ例ニ同シ

〇第一款 第十七節

第百條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スニ罪以上俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從テ處斷ス

重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ刑期ノ等シキ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト爲ス

輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ス

第百一條 違警罪ニ罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科ス

若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從フ

第百二條 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕

シ若シハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ

前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ

該リ已ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ

後發ノ刑期ニ通算ス

若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セサル罪再犯ノ罪ト俱

ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セス

第百三條 數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フ時ト雖モ其沒收及

ヒ徵償ノ處分ハ各本法ニ從フ

第六條 法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依

テ處斷ス

參看(刑)第百五十七條 官令ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スシテ陸海軍ノ

用ニ供スル銃砲彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製造シタル者ハ

二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下

ノ罰金ヲ附加ス其之ヲ輸入シタル者亦同シ

前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一月以上一年以下ノ重

禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百五十八條 前條ノ罪ヲ犯スト雖モ職工又ハ雇人ニシテ

○第一款 第十七節



止テ正犯ノ使令ニ供シタル者ハ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス  
第百五十九條 前二條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者  
ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第百六十條 第百五十七條ニ記載シタル物品ヲ私ニ所有シ  
タル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十一條 第百五十七條ニ記載シタル物品ノ製造ニ供  
シタル器械ニマテ單ニ其用ニ供ス可キ者ハ何人ノ所有ヲ  
問ハス之ヲ沒收ス

第百六十四條 電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シ  
テ電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮  
ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スト雖モ不  
通ニ至ラサル時ハ一等ヲ減ス

第百六十五條 氣車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ其標識  
ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第百六十七條 前數條ニ記載シタル罪其事務ニ關スル官吏  
及ヒ雇人職工自ラ犯シタル時ハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ  
第百八十一條 傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入  
港スルニ當リ醫師其病患ヲ検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述  
スルヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ五  
圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタル時ハ一等ヲ  
減ス

第二百二十九條 商賈農工定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有  
シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二  
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○第一款 第十七節

若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ  
論ス

第二百四十六條 傳染病預防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シ  
テ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者  
ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百  
圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十八條 傳染病流行ノ際預防規則ニ違背シテ流行  
地方ヨリ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮  
ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十四條 規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シタル者  
ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百五十八條 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ  
事實ノ有無ヲ問ハズ左ノ例ニ照シテ處斷ス

一公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上三月  
以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加  
ス

二書類畫圖ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ人ヲ誹毀シ  
タル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上  
五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 前數條ノ罪ヲ犯シ拘留料料ニ處スル者ト雖モ輕罪裁判所ニ  
於テ之ヲ裁判ス

但始審裁判所所在ノ地ヲ除クノ外ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ裁判  
スルヲ得

右奉 勅旨布告候事

第十八節 第七十三号 明治十四年十月二十八日 司法卿  
連署

七七 治罪法ニ於テ無能力者法律ニ定メタル代人及ヒ民事擔當人ト稱スル

○第一款 第十七節 第十八節

者ハ左ノ通  
無能力者

- 一 未了年者
  - 二 妻タル者
  - 三 白痴瘋癲人
  - 四 治産ノ禁ヲ受ケタル者
- 法律ニ定メタル代人
- 一 未了年者ノ父若クハ母又ハ親屬後見人
  - 二 夫タル者
  - 三 白痴瘋癲者ノ保管者
  - 四 治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ財産管理人
- 民事擔當人
- 一 未了年者ノ父若クハ母又ハ同居ノ親屬ニシテ監督ヲ爲ス者

- 二 夫タル者
- 三 白痴瘋癲人ノ保管者
- 四 雇主

但雇人其雇主ノ命シタル事件ヲ行フ時  
右奉 勅旨布告候事

第十九節 第七十四号 明治十四年十月二十八日 (司法卿) 連署  
治罪法中刑事ノ控訴ニ關スル條件ハ當分ノ内實施セス  
右奉 勅旨布告候事

參看(治)第五十四條 始審裁判所ハ輕罪裁判所トシテ其管轄地内ニ  
於テ犯シタル輕罪ヲ裁判ス

又重罪及ヒ輕罪ノ豫審ヲ行フ

又其管轄地内ノ違警罪裁判所ノ始審ノ裁判ニ對スル控訴  
ヲ裁判ス

○第一款 第十八節 第十九節

第六十三條 控訴裁判所ニ刑事局ヲ置キ輕罪裁判所ノ始審ノ裁判ニ對スル控訴ヲ裁判ス但其裁判ハ判事三名以上ニテ之ヲ爲ス可シ

第三百三十八條 違警罪裁判所ノ裁判言渡ニ對シテハ左ノ區別ニ從ヒ輕罪裁判所ニ控訴スルヲ得

一 被告人ハ拘留ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル時

二 民事原告人被告人及ヒ民事擔當人ハ要償ニ付テノ言渡

民事上治安裁判所ノ終審ノ金額ヲ超過シタル時

三 警察官其他訴訟關係人ハ上ニ記載シタル理由アラサル

時ト雖モ管轄違越權擬律ノ錯誤又ハ無效ノ記載アル規

則ニ背キタル時

第三百三十九條 控訴ヲ爲サントスル者ハ原裁判所ノ書記

局ニ其申立書ヲ差出ス可シ但其申立ノ期限ハ對審裁判ニ

付テハ言渡ヨリ三日内又闕席裁判ニ付キ故障アラサル時

ハ本人又ハ其住所ニ言渡書ノ送達アロタルヨリ五日内ト

ス

控訴ヲ爲スノ申立アリタル時書記ヨリ其旨ヲ對手人ニ通

知ス可シ

第三百四十條 訴訟ニ關スル一切ノ書類ハ檢察官ヨリ控訴

ヲ受ク可キ裁判所ノ書記局ニ之ヲ送致ス可シ

若シ檢察官控訴ノ申立人又ハ對手人ナル時ハ控訴ヲ受ク

可キ裁判所ノ檢察官ニ其意見書ヲ差出ス可シ

第三百四十一條 控訴ヲ受ク可キ裁判所ニ於テハ書記局ヨ

リ訴訟關係人ニ對シ呼出狀ヲ發シタル後其裁判ニ取掛ル

可シ

呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ二日ノ猶預アル可シ

〇第一款 第十九節

證人ハ呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ一日ノ猶預ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ

第三百四十二條 控訴ノ對手人ハ其裁判言渡アルマテ何時ニテモ附帶ノ控訴ヲ爲ス可シ得但附帶ノ控訴ハ公廷ニ於テ直チニ之ヲ申立ルコトヲ得

第三百四十三條 控訴ニ係ル事件ハ輕罪ノ裁判ヲ爲スニ付キ定メタル規則ニ從ヒ之ヲ裁判ス可シ  
檢察官其他訴訟關係人ハ裁判長ノ允許ヲ得ルニ非サレハ新ナル證人又ハ始審ニ於テ陳述シタル證人ヲ呼出ス可シ得ス

第三百四十四條 控訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ原裁判言渡ヲ認可スルノ言渡ヲ爲シ又ハ之ヲ取消シ更ニ裁判言渡ヲ爲ス可シ

被告人ノミ控訴ヲ爲シタル時ハ原裁判言渡ヨリ重キ刑ヲ言渡ス可シ得ス

私訴ニ付テノ控訴ノ裁判ハ通常民事ノ規則ニ從フ

第三百四十五條 第三百三十一條以下ノ規則ハ控訴ノ闕席裁判ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第三百六十五條 檢察官其他訴訟關係人ハ左ノ區別ニ從ヒ輕罪裁判所ノ裁判言渡ニ對シ控訴裁判所ニ控訴スルコトヲ得

一 檢察官ハ無罪免訴又ハ刑ノ言渡アリタル時

但違警罪事件トシテ言渡アリタル場合ニ於テハ其事件ヲ輕罪ナリトスル時

二 被告人ハ違警罪ニ付テノ言渡ヲ除クノ外刑ノ言渡ヲ受ケタル時

○第一款 第十九節

三民事原告人被告人及ヒ民事擔當人ハ要償ニ付テノ言渡  
民事上始審裁判所ノ終審ノ金額ヲ超過シタル時

四檢察官其他訴訟關係人ハ管轄違越權擬律ノ錯誤又ハ無  
效ノ記載アル規則ニ背キタル時

第三百六十六條 控訴ハ裁判言渡アリタルヨリ五日內ニ之  
ヲ爲スヲ得

闕席裁判ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマア何時ニ  
テモ故障ヲ爲サシテ直チニ控訴ヲ爲スヲ得但第三百  
五十六條ノ場合ニ於テハ五日內ニ之ヲ爲ス可シ

第三百六十七條 公訴ノ裁判言渡ニ對シ控訴アリタル場合  
ニ於テ被告人勾留ヲ受ケタル時ハ檢察官ヨリ之ヲ控訴裁  
判所ノ監倉ニ移ス可シ

第三百六十八條 第三百三十九條ヨリ第三百四十二條マテ

及ヒ第三百四十四條ノ規則ハ此章ニモ亦之ヲ適用ス

第三百六十九條 輕罪裁判所檢事ノ控訴又ハ檢事長ノ附帶  
ノ控訴アリタル場合ニ於テ被告事件ヲ重罪ナリトスル時  
ハ第二百五十五條ノ規則ニ從ヒ會議局ニ於テ重罪裁判所  
ニ移スノ言渡ヲ爲ス可シ

第三百七十條 控訴ノ闕席裁判及ヒ其故障ニ付テハ始審ノ  
闕席裁判及ヒ其故障ニ付キ定メタル規則ニ從フ

第二十節 第七十六号 明治十四年十月二十八日 司法卿 連署

第一款第五節 参照スヘシ

本年十月第五十三号布告裁判所名稱區畫表始審ノ行中相川豐岡洲本  
田邊脇町高山西郷平戸福江嚴原天草大曲八戸ノ名稱ヲ削除シ其管  
轄ハ相川ヲ新潟ニ豐岡ヲ姫路ニ洲本ヲ神戸ニ田邊ヲ和歌山ニ脇町  
ヲ徳島ニ高山ヲ岐阜ニ西郷ヲ松江ニ平戸福江嚴原ヲ長崎ニ天草ヲ  
熊本ニ大曲ヲ秋田ニ八戸ヲ弘前ニ合併ス

○第一款 第二十節 第二十一節

右奉 勅旨布告候事

第二十一節 第七十七号 明治十四年十月二十八日 (司法卿 連署)

第一款第七節 即参照スヘシ

本年十月第五十四号ヲ以テ輕罪ニシテ豫審ヲ要セサルモノニ限リ治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開クヲ得ヘキ旨布告候處當分ノ内相川豐岡洲本田邊脇町高山西郷平戸福江嚴原天草大島大曲八戸ノ各治安裁判所ニ於テハ輕罪裁判所ヲ開キ總テノ輕罪ヲ裁判スルコトヲ得ヘシ

但本文ノ場合ニ於テ訟廷内治罪ノ手續等ハ本年第五十四号布告但書ノ通ナルヘシ

右奉 勅旨布告候事

第二十二節 第七十八号 明治十四年十月二十八日 (司法卿 連署)

重罪裁判所管轄區畫別紙ノ通相定メ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

但治罪法第七拾二條ニ從ヒ管内便宜ノ裁判所ニ於テ一ヶ所又ハ數ヶ所開廳スヘシ

右奉 勅旨布告候事

參看(治)第七十一條 重罪裁判所ハ三月毎ニ之ヲ開ク

若シ事件夥多ナル時ハ控訴裁判所長及ヒ檢事長ヨリ司法卿ニ具申シ其許可ヲ得テ臨時開廳スルコトヲ得

第七十二條 重罪裁判所ハ控訴裁判所又ハ始審裁判所ニ於テ之ヲ開ク

重罪裁判所管轄

東京重罪裁判所 管轄 東京始審裁判所管轄ノ地方  
神奈川重罪裁判所 同 横濱始審裁判所管轄ノ地方  
新潟重罪裁判所 同 新潟 高田 長岡 新發田始審裁判所管轄ノ地方

地方

○第一款 第二十二節

埼玉重罪裁判所 同 浦和 熊谷始審裁判所管轄ノ地方  
 千葉重罪裁判所 同 千葉 木更津始審裁判所管轄ノ地方  
 栃木重罪裁判所 同 栃木 宇都宮始審裁判所管轄ノ地方  
 群馬重罪裁判所 同 前橋始審裁判所管轄ノ地方  
 茨城重罪裁判所 同 水戸 土浦始審裁判所管轄ノ地方  
 山梨重罪裁判所 同 甲府始審裁判所管轄ノ地方  
 静岡重罪裁判所 同 静岡 濱松始審裁判所管轄ノ地方  
 長野重罪裁判所 同 松本 長野 上田始審裁判所管轄ノ地方  
 大阪重罪裁判所 同 大阪 堺 奈良始審裁判所管轄ノ地方  
 京都重罪裁判所 同 京都 園部 宮津始審裁判所管轄ノ地方  
 兵庫重罪裁判所 同 神戸 姫路始審裁判所管轄ノ地方  
 和歌山重罪裁判所 同 和歌山始審裁判所管轄ノ地方  
 滋賀重罪裁判所 同 大津 彦根始審裁判所管轄ノ地方  
 德島重罪裁判所 同 德島始審裁判所管轄ノ地方

岡山重罪裁判所 同 岡山 津山始審裁判所管轄ノ地方  
 福井重罪裁判所 同 福井始審裁判所管轄ノ地方  
 石川重罪裁判所 同 金澤 富山 七尾始審裁判所管轄ノ地方  
 高知重罪裁判所 同 高知 中村始審裁判所管轄ノ地方  
 愛媛重罪裁判所 同 松山 高松 宇和島始審裁判所管轄ノ地方  
 長崎重罪裁判所 同 長崎 佐賀始審裁判所管轄ノ地方  
 福岡重罪裁判所 同 福岡始審裁判所管轄ノ地方  
 熊本重罪裁判所 同 熊本始審裁判所管轄ノ地方  
 大分重罪裁判所 同 大分 中津始審裁判所管轄ノ地方  
 鹿兒島重罪裁判所 同 鹿兒島 宮崎始審裁判所管轄ノ地方 沖繩

函館重罪裁判所 同 函館始審裁判所管轄ノ地方 開拓使札幌根室本  
 支廳管轄ノ地方

○第一款 第二十二節



- 九 青森重罪裁判所 同 弘前始審裁判所管轄ノ地方  
 愛知重罪裁判所 同 名古屋 岡崎始審裁判所管轄ノ地方  
 岐阜重罪裁判所 同 岐阜始審裁判所管轄ノ地方  
 三重重罪裁判所 同 安濃津 山田始審裁判所管轄ノ地方  
 宮城重罪裁判所 同 仙臺始審裁判所管轄ノ地方  
 福島重罪裁判所 同 福島 若松 平 白川始審裁判所管轄ノ地方  
 磐手重罪裁判所 同 盛岡 磐井始審裁判所管轄ノ地方  
 山形重罪裁判所 同 山形 米澤 酒田始審裁判所管轄ノ地方  
 秋田重罪裁判所 同 秋田始審裁判所管轄ノ地方  
 廣島重罪裁判所 同 廣島 尾道始審裁判所管轄ノ地方  
 山口重罪裁判所 同 山口始審裁判所管轄ノ地方  
 島根重罪裁判所 同 松江 濱田始審裁判所管轄ノ地方  
 鳥取重罪裁判所 同 鳥取 米子始審裁判所管轄ノ地方

第二十三節 第七十九号 明治十四年十月二十八日 (司法卿) 連署

第一款第六節 參照スヘシ

各裁判所ノ位置及管轄區畫ノ儀本年十月第五十三号ヲ以テ布告候處  
 北海道函館始審裁判所管内ヲ除ク并ニ沖繩縣ノ儀ハ當分從前ノ通其  
 所轄ノ官廳ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜ノ取計ヲ爲スヘシ  
 但控訴ノ儀北海道ハ函館控訴裁判所沖繩縣ハ長崎控訴裁判所ノ管  
 轄ニ屬ス

右奉 勅旨布告候事

第二十四節 第八十号 明治十四年十月二十八日 (司法卿) 連署

第一款第五節 參照スヘシ

本年九月第四十八号布告左ノ通改正ス  
 違警罪ノ儀ハ本年第三十六号布告ニ據リ明治十五年一月一日ヨリ  
 治安裁判所ニ於テ裁判スヘキ處當分ノ内府縣警察署及ヒ其分署ニ  
 於テ裁判セシムヘシ

九

右奉 勅旨布告候事

○第一款 第二十三節 第二十四節 第二十五節

第二十五節 第八十一号 明治十四年十月二十八日 (司法卿) 連署

刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スルニハ左ノ例ニ從フヘシ

參看(刑)第三條 法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスヲ得ス  
若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經セラル者ハ新舊ノ法  
ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

第一條 新舊法比照左ノ如シ

新法

舊法

一死刑

斬絞

二無期徒刑

懲役終身

三有期徒刑

四無期流刑

禁獄終身

五有期流刑

六重懲役

懲役十年

七輕懲役

懲役七年

八重禁獄

禁獄十年

九輕禁獄

禁獄七年

十重禁錮

懲役十一日以上五年以下

十一輕禁錮

禁獄鎖錮十一日以上五年以下

十二罰金

贖罪收贖罰金科料二圓以上

十三拘留

懲役禁獄鎖錮拘留十日以下

十四料料

贖罪收贖罰金科料二圓未滿

參看(刑)第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

一死刑

二無期徒刑

三有期徒刑

四無期流刑

○第二款 第二十五節

五有期流刑

六重懲役

七輕懲役

八重禁錮

九輕禁錮

第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

一重禁錮

二輕禁錮

三罰金

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主刑ト爲ス

一拘留

二科料

第二條 舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期内ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ

刑期ニ過クルヲ得ス(舊法ニ於テ懲役百日ニ該ル者新法ニ照シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ二月以上百日以下ノ重禁錮ニ處スルノ類)

若シ舊法ノ刑期新法主刑ノ短期ニ等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ(舊法ニ於テ禁錮三十日ニ該ル者新法ニ照ラシ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ舊法ニ從ヒ禁錮三十日ニ處スルノ類)

第三條 舊法新法ノ刑共ニ短期長期アル者ハ其短期ノ短キ者ニ從フ但其長期ノ短キ者ニ過ルヲ得ス(舊法ニ於テ一年以上三年以下ノ懲役ニ該ル者新法ニ照ラシ三月以上四年以下重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處スルノ類)

若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ(舊法ニ於テ二月以上三年以下ノ禁錮ニ該ル者新

○第一款 第二十五節

法ニ照ラシ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ舊法ニ從ヒ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處スルノ類)

第四條 舊法ノ贖罪收贖若クハ罰金科料ノ金額新法主刑ノ金額内ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ金額ニ過クルヲ得ス

第五條 舊法新法ノ罰金科料共ニ多數寡數アル者ハ其寡數ノ寡キ者ニ從フ但其多數ノ寡キ者ニ過クルヲ得ス

第六條 舊法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金ヲ附加ス可キ時ハ其罰金ヲ附加セス

第七條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金科料ニ該ル時ハ新法ニ從フ

舊法ニ於テ贖罪收贖若クハ罰金科料ニ該ル者新法ニ照シ體刑ニ該ル時ハ舊法ニ從フ

第八條 舊法ニ從ヒ贖罪收贖ニ處シタル者其金額ヲ延期限内ニ納完

スル能ハサル時ハ一圓ヲ一日ニ折算シ輕禁錮又ハ拘留ニ換フ但一圓未滿ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

參看刑第二十七條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム

若シ限内納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求ニ因リ裁判官之ヲ命ス但禁錮ノ期限ハ二年ニ過クルヲ得

ス

若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ扣

除シテ禁錮ヲ免ス親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタル時亦

同シ

第三十條 科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納定セシム若

シ限内納完セサル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ之ヲ拘留ニ

○第一款 第二十五節

換フ

第九條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ重罪ノ刑ニ處スル時ハ新法ノ附加刑ヲ適用セス但除族追奪位記沒收ノ類ハ舊法ニ從フ  
參看(刑)第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

一 剝奪公權

二 停止公權

三 禁治產

四 監視

五 罰罰

六 沒收

第十條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スル時ハ監視ヲ附加セス

第十一條 華士族ノ犯罪新法ニ於テ輕罪ニ該ル者舊法ニ從ヒ處斷スル

時ハ其族ヲ除セス

第十二條 新法ト舊法トヲ比照スルニハ各其本法ニ照シ加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

參看(刑)第九十九條 犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

一 再犯加重

二 宥恕減輕

三 自首減輕

四 酌量減輕

九元 第十三條 舊法ニ於テ棒鎖ニ該ル者ハ仍ホ棒鎖ニ處ス  
右奉 勅旨布告候事

○第一款 第二十六節 第二十七節

一〇一 第二十六節 第八十二号 明治十四年十月二十八日 (司法卿)  
大審院各裁判所ニ於テ明治十四年十二月三十一日以前審理ニ着手セ

シ刑事ハ十五年一月一日以後ト雖モ治罪法ニ拘ハラズ仍ホ従前ノ規則ニ從ヒ處分スヘシ

參看治第五條 公訴私訴ノ裁判ハ管轄裁判所ニ於テ現ニ施行スル

法律ニ定メタル訴訟手續ニ從ヒ之ヲ爲ス可シ

第二十七節 第八十三号 明治十四年十月二十八日 (司法卿)

治安裁判所及ヒ始審裁判所ノ權限左ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

第一條 治安裁判所ハ訴訟事件ヲ勸解ス但諸官廳ニ對スル事件及ヒ

商事ニ係リ急速ヲ要スル事件ハ勸解スルノ限ニ在ラス

第二條 治安裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓未滿ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス

第三條 治安裁判所ハ人事其他金額ニ見積ル可カラサルモノヲ裁判スルコトヲ得ス

第四條 始審裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓以上並ニ第三條ニ掲

ケタル治安裁判所權外ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス

第五條 始審裁判所ハ其管轄地内ノ治安裁判所ノ始審裁判ニ對スル

控訴ニ付終審ノ裁判ヲ爲ス

但控訴ノ手續ハ明治十年第十九号布告控訴手續ニ照準スヘシ

## 第二款 太政官達

第一節 第七十七号 明治十四年八月卅一日 (警視廳府縣)

(東京府ヲ除)

一〇一 刑法第四百三十條ニ依リ各地方ノ便宜ニ從ヒ違警罪目ヲ定メ發行シタルトキハ之ヲ主務ノ省ニ届出ヘシ此旨相達候事

## ○第二款 第一節 第二節

參看(刑)第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニヨリ  
 定ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ其罰則ニ從テ處斷ス  
 第二節 第八十一号 明治十四年 官省院使  
 九月二十日 廳府縣  
 明治五年達監獄則及本年(三月第十三号)達在監人給與規則同(七月)第六  
 十四号達在監人雇工錢規則ヲ合セテ別冊ノ通監獄則相定候條此旨相  
 達候事

但明治十五年一月一日以後施行ノ刑法治罪法ニ關涉スル條件ハ同  
 日ヨリ施行ス可シ

參看(刑)第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細目ハ別ニ  
 規則ヲ以テ之ヲ定ム

監獄則目錄

第一編

第一章 汎則

- 第二章 監署ノ規程
- 第三章 監獄ノ構造

第二編

- 第一章 役法 附時限
- 第二章 工錢
- 第三章 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受ケタル囚徒押送
- 第四章 假出獄免幽閉ノ者ニ貸與スル屋舎

第三編

- 第一章 給與
- 第二章 疾病 附死亡
- 第三章 書信
- 第四章 接見
- 第五章 差入品

○ 第二款 第二節

第四編

第一章 教誨

第二章 賞與

第三章 懲罰

監獄則

第一編

第一章 汎則

第一條 監獄ヲ別テ左ノ六種ト爲ス

一 留置場 裁判所及ヒ警察署ニ屬スルモノニシテ未決者ヲ一時留置スルノ所トス但時宜ニ由リ拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スルコトヲ得

二 監倉 未決者ヲ拘禁スルノ所トス

三 懲治場 懲治人ヲ懲治スルノ所トス

四 拘留場 拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スルノ所トス

五 懲役場 懲役ノ刑及ヒ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルノ所トス

六 集治監 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ處セラレタル者ヲ集治スルノ所トス

北海道ニ在ル本監ハ徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治ス

第二條 監獄ハ内務卿ノ管轄ニ屬ス但陸海軍ノ管轄ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス

第三條 集治監ハ内務卿之ヲ直轄ス留置場監倉懲治場拘留場懲役場

ハ警視總監又ハ府知事(東京府ヲ除ク)縣令之ヲ管理ス

第四條 此獄則ハ特ニ陸海軍ノ獄則ヲ以テ處スヘキモノニ適用スルコトヲ得ス

參看(刑)第四條 此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ス可キ者ニ

○第二款 第二節



適用スルヲ得ス

(治)第二十九條 此法律ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分ス可キ者ニ適用スルヲ得ス

第五條 內務卿ハ毎年其所屬官吏ヲシテ各監獄ヲ巡閱セシムヘシ

警視總監府知事縣令ハ毎年三四次所轄ノ監獄ヲ巡閱スヘシ

裁判官檢察官ハ時々其裁判所ニ屬スル監倉ヲ巡閱スヘシ

府縣會議員ハ臨時其府縣監獄ヲ巡閱スルコトヲ得

第六條 在監人ト稱スルハ未沒已沒ノ者及第十九條第三十條ニ記載シタル者ヲ云フ

第七條 在監人ヨリ司獄官吏ノ處置ニ對シ若シ情苦ヲ訴ヘントスルハ第五條第一項第二項ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得

第二章 監署ノ規程

第八條 司獄官吏在監人ヲ管束スルハ一ニ和平ヲ乘リ罰例ニ照シテ

犯則者ヲ決責スルノ外恣ニ責罰スルヲ得ス

參看(刑)第二百八十條 前二條ニ記載シタル官吏(司獄官吏逮捕)又ハ護

送者囚人ニ對シ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シ

タル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十

圓以下ノ罰金ヲ附加ス

囚テ囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ

一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第九條 典獄看守長ハ日夜不時ニ監房ノ内外ヲ視察シ或ハ物件ヲ查

閱シ其他囚徒ノ傲惰ヲ生シ脱越等ノ事ナカラシムルヲ要ス

第十條 新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ拘引狀拘留狀收監狀又

ハ處刑宣告書等ノ文書ヲ查閱シテ之ヲ領シ其領收ノ證ヲ引致シタ

ル者ニ交付ス其文書ナクシテ引致セラレタル者ヲ入監スルヲ得ス

○第二款 第二節

未決者ノ中共犯人アルトキハ其監房ヲ別異シ談話通聲ヲ禁シ法庭ニ引致ノ時モ同往セシムルヲ得ス

已決者ハ第十六條ニ記載シタル差別ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

參看(治)第三百三十七條 勾留狀又ハ收監狀ヲ受ケタル被告人ハ速ニ

其令狀ニ記載シタル監倉ニ引致ス可シ若シ其監倉ニ引致スルコト能ハサル時ハ假ニ最近ノ監倉ニ引致スルコト得

何レノ場合ニ於テモ監倉長ハ令狀ヲ檢閲シテ被告人ヲ受取リ其證書ヲ渡ス可シ

(刑)第二百七十九條 司獄官吏程式規則ヲ遵守セスシテ囚人ヲ

監禁シ若クハ囚人ヲ出獄セシム可キノ時ニ之ヲ放免セサル者ハ亦前條ノ例ニ同シ(十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ付加シ監禁日數十日ヲ過ク)ル毎ニ一等ヲ加フルヲ云フ

第十一條 入監ノ婦女乳兒三歳未滿ヲ携帯セント請フ者アルトキハ

之ヲ許ス

第十二條 新ニ入監スル者アルトキハ名籍ノ様本ニ照シ其要項ヲ詳

録シ一小房内ニ於テ通身ヲ搜檢シ利器其他ノ物件ヲ夾帶スルヲ拒クヘシ懲治人ノ監舎ニ入ルトキモ亦同シ

第十三條 總テ監房ニ入ル、物品ハ典獄一々之ヲ精驗シ其危險ノ虞アルモノハ一切之ヲ禁スヘシ

第十四條 總テ入監人ノ携有スル財貨物件ハ悉ク點檢シテ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄一々證印シテ之ヲ領置シ釋放ノ時還付スヘシ但點檢ノ際隱匿セザ貨物ハ沒收ス

若シ其領置ノ貨物ヲ以テ親屬ヲ扶助シ其他正當ノ費用ニ充ント請フトキハ之ヲ許ス

第十五條 左監人書籍ヲ看ント請フトキハ新聞紙及ヒ時事ノ論說ヲ記載スルモノヲ除キ修身又ハ營業ニ必要ナルモノ、ミヲ許スヘシ

○第二款 第二節

第十六條 已決囚ハ各刑名ニ從テ其監房ヲ別異シ又其中ニ就テ左ニ記載シタル者ヲ別異ス

一十六歲未滿ノ者ト滿十六歲以上ノ者

二滿十六歲以上二十歲未滿ニシテ再犯以上ノ者ト同上ノ年齢ニシテ初犯ノ者

三初犯ノ者ト再犯以上ノ者

第十七條 要犯疑獄ニ係ル者ヲ拘禁スル未決監ニ於テハ其氏名ヲ呼ハス番号ヲ以テ之ニ換フヘシ但着衣ノ外襟ニ白布ヲ纏着シ其番号ヲ墨書シ監房ヲ出入スル毎ニ皂布ヲ以テ覆面シ當眼ノ所ニ小孔ヲ穿テ共犯者ヲシテ共ニ拘禁ノ身タルヲ窺探スルヲ得サラン

第十八條 放恣不良ノ者ヲ懲治場ニ入レ矯正歸善セシメント其尊屬親ヨリ願出ルトキハ第二十條第一項ノ例ニ照シテ處分スヘシ  
矯正歸善ノ爲メ懲治場ニ入ルヘキ者ノ年齢ハ滿八歲以上滿二十歲

以下ヲ限トス

第十九條 懲治人ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ

一刑法第七十九條第八十條第八十二條ニ從ヒ懲治場ニ留置スル幼年ノ者及ヒ瘡啞者

二尊屬親ノ情願ニ由テ懲治場ニ入レタル者

參看(刑)第七十九條 罪ヲ犯ス時十二歲ニ滿サル者ハ其罪ヲ論セス但滿八歲以上ノ者ハ情狀ニ因リ滿十六歲ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得

第八十條 罪ヲ犯ス時滿十二歲以上十六歲ニ滿サル者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ審案シ辨別ナクシテ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ滿二十歲ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得  
若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ

〇第二款 第二節

減ス

第八十二條

瘖啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀

ニ因リ五年ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得

第二十條

前條第二欸ニ記載シタル懲治人ハ戶長ノ証票ヲ具スルニ

非レハ入場ヲ許サス但在場ノ時間ハ六個月ヲ一期トシ二年ニ過ル

ヲ得ス

入場ヲ請ヒシ爲屬親ヨリ懲治人ノ行狀ヲ試ミル爲メ宅舎ニ帶往セ  
ント請フトキハ其情狀ニ由リ之ヲ許スヘシ

第二十一條

懲治人ハ左ノ年齢ニ從ヒ其居房ヲ別異ス

一十六歲未滿ノ者ト滿十六歲以上ノ者

二滿十六歲以上二十歲未滿ニシテ再ヒ懲治場ニ入シ者ト同上ノ年  
齡ニシテ初テ入場スル者

第二十二條

在監人ヲ他監ニ移ストキハ其名籍又ハ處刑ノ宣告書其

他必用ノ文書及ヒ領置ノ貨物ヲ具シテ送致スヘシ其發遣ノ途中ニ

在テノ行狀ハ押送官吏之ヲ記述シテ典獄ニ知會スヘシ

在監人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ戒具ヲ用ヒ男ト女ヲ別

ツヘシ但懲治人ハ戒具ヲ用ヒス

第二十三條

典獄ハ看守長及ヒ看守ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ録サ

シメ賞罰ヲ行フノ考據トナスヘシ

第二十四條

賞表ヲ與ヘタルキハ賞譽簿ニ其氏名及ヒ賞詞ヲ記載シ

視奪シタルキハ之ヲ刪除スヘシ但其賞罰ヲ行ヒタル旨ヲ囚徒ニ示

スハ第二十六條ノ例ニ依ルヘシ

第二十五條

特赦アリタルキハ速ニ其旨ヲ内務卿ニ申報スヘシ

參看(治)第四百七十七條 特赦ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ

檢察官又ハ監獄長ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ司法卿ニ申立ル

ヲ得

○第二欸 第二節

監獄長ヨリ特赦ノ申立ヲ爲ス時ハ檢察官ヲ經由ス可シ但  
檢察官ハ意見書ヲ添フ可シ

特赦ノ申立アリタル時ハ司法卿ヨリ其書類ニ意見書ヲ添  
へ上奏ス可シ

第四百七十八條 司法卿ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテ  
モ特赦ノ申立ヲ爲ス可シ得

死刑ヲ除クノ外特赦ノ申立アリト雖モ刑ノ執行ヲ停止セス

第二十六條 特赦ヲ受ケタル者アルモ免役日若クハ日曜日ノ午後  
ニ在テ他ノ囚徒ヲ集メ其旨ヲ聽カシメ仍ホ之ヲ揭示スヘシ

第二十七條 假出獄ヲ許サレタル者ニハ其証票ヲ與ヘ警察遞傳ヲ以

テ其居住セントスル地ニ押送スヘシ

監署ニ領置セシ金錢ハ出獄者ニ携帶セシメス其金員ヲ録シテ共ニ  
其地ノ警察官(治罪法第六十條第二項ニ記載シタル官吏)ニ送致スヘシ

參看(刑)第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ

悔改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ  
處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許ス可シ得

無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同シ

流刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スルノ外假出獄ノ

例ヲ用ヒス

第五十四條 徒刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サルハト雖モ仍ホ島地

ニ居住セシム

(治)第六十條 東京警視本署長及ヒ府縣長官ハ各其管轄地内ニ  
於テ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スルニ付キ檢事ト同一  
ノ權ヲ有ス但東京府長官ハ此限ニ在ラス

左ニ記載シタル官吏ハ檢事ノ補左トシテ其指揮ヲ受ケ第

三編ニ定メタル規則ニ從ヒ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査

○第二款 第二節

ス可シ

一 警視警部

二 區長 部長

三 治安判事

四 警部ノ在ラサル地ノ戸長

第二十八條

假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者其刑期間ハ典獄ニ於テ營業ノ方法ヲ指示シ其來署ヲ要スルキハ召喚スルヲ得

參看(刑)第二十一條

無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ

以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限り居住セシムルヲ得  
有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同シ

第二十九條

在監人中能ク獄則ヲ守ル者ヲ撰テ傳告者誘工者トナス  
傳告者ハ官吏ノ命令ヲ在監人ニ傳ヘシメ誘工者ハ工場ニ在テ服役者ヲ勸誘セシム但傳告者誘工者ハ滿六箇月以上其用務ヲ繼續セシム

ルヲ得ス

傳告者及ヒ誘工者ハ私ニ在監人ヲ使役シ若クハ凌辱スルノ所爲アルヲ許サス

第三十條

刑期滿限ノ後頼ルヘキ所ナキ者ハ其情狀ニ由リ監獄中ノ別房ニ留メ生業ヲ營マシムルヲ得

第三十一條

刑期滿限ノ者ヲ解放スルハ滿期ノ翌日午前第十時ヲ過ヘカラス

參看(刑)第四十九條

刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セス

第三十二條

死刑ノ執行ハ午前第十時ヲ過ルヲ得ス其執行中ハ看守

○ 第二款 第二節

ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシムヘシ  
其遺骸ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ二分時ヲ過サレハ埋葬若クハ下付  
スルコトヲ得ス

參看刑第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄

内ニ於テ之ヲ行フ

第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレハ之ヲ下付ス  
但式ヲ用ヒテ葬ルコトヲ許サス

第三十三條 刑死者又ハ死亡者アルトキハ其年月日時ヲ記シ典獄ヨ  
リ本籍ノ戸長及ヒ近地ノ親屬若クハ故舊ニ通知スヘシ其監署ニ領  
置シタル貨物ハ親屬ニ下付ス若シ親屬ナキトキハ遺骸ヲ領取シタ  
ル故舊ニ之ヲ下付ス但死者ノ身ニ纏ヒタル衣服ハ此限ニ在ラス  
親屬遠地ニ在テ物品ヲ送付スルコト入費ヲ要スルモノハ其物品ヲ販  
賣シテ代價ヲ遞付スルコトヲ得但送費ハ親屬ノ自辨トス

若シ其物件又ハ代價ヲ受クヘキ者ナキトキハ之ヲ沒收ス

第三十四條 在監人逃走スル者アル時ハ領置ノ貨物ハ前條ノ例ニ依  
テ處分スヘシ但シ沒收ハ逃走ノ日ヨリ滿一個年ヲ經ルノ後ニ非レ  
ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

領置ノ工錢ハ第五十七條ニ照シテ處分スヘシ

第三十五條 監獄ノ近境ヨリ發火シテ罹災ノ虞アルトキハ司獄官吏  
其形勢ヲ量リ在監人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避シムヘシ

水火風震其他激甚ナル變災ニ際シ在監人ヲ押送スルノ違ナキハ  
要犯疑獄ニ係ル者ヲ除クノ外一時解放スルヲ得

參看刑第二百八十一條 水火震災ノ際官吏囚人ノ監禁ヲ解クコトヲ  
怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一

等ヲ加フ

第三章 監獄ノ構造

○第二款 第二節

〇二一

第三十六條 留置場監倉懲治場拘留場懲役場ハ每府縣ニ置キ集治監  
ハ適當ノ地ニ之ヲ置クモノトス  
留置場監倉懲治場拘留場懲役場一區畫内ニ在ルモノハ墻壁ヲ以テ  
之ヲ區畫スヘシ

第三十七條 未決監已決監及ヒ懲治場ハ男監女監ノ別ヲ嚴劃スヘシ  
甲ノ監房ニ在ル者ト乙ノ監房ニ在ル者ト彼是交談シ又ハ物件ヲ交  
遞スルノ便ヲ得サラシムヘシ各監房ノ鑰匙ハ其製式ヲ同クシ甲乙  
適用スルヲ要ス

第三十八條 密室ハ監倉ニ設ケ他人ト交通スルコトヲ得サラシムヘ  
シ  
闇室ハ已決監ニ設ケ暗ニ空氣ヲ通セシメ毫モ光線ヲ通セシメサル  
ヲ要ス  
密室闇室ハ一室一人ヲ限トス

參看(治)第四百十三條 豫審判事ハ豫審中事實發見ノ爲メ必要ナリ  
ト思料シタル時ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ勾留  
狀若クハ收監狀ヲ受ケタル被告人ヲ密室ニ監禁スルノ言  
渡ヲ爲スヘシ得

第四百十四條 密室監禁ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ一名毎  
ニ之ヲ別室ニ置キ豫審判事ノ允許ヲ得ルニ非サレハ他人  
ト接見シ又ハ書類貨幣其他ノ物品ヲ授受スルコトヲ許サス  
食物飲料藥餌其他監倉ヨリ給ス可キ物品ト雖モ監倉長ノ  
特ニ指名シタル者ヲシテ之ヲ給與セシム

第三十九條 接見室ハ監舍ノ首部ニ設ケ其壁面ニ方三尺ノ口ヲ開キ  
之ニ縱横ノ格子ヲ嵌メ格子ヨリ三尺許ヲ距リ柵欄ヲ設ケ在監人ハ  
格子内ニ立シメ外人ハ格子外ノ柵欄ニ倚ラシムヘシ但懲治人ノ接  
見室ハ此例ヲ用ヒス

〇第二款 第二節

一二一



第四十條 燈火ハ監房外ニ置キ障碍スルノ虞ナカラシムヘシ  
第四十一條 死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ牆壁ヲ以テ外見ヲ防クヘシ

第二編

第一章 役法 附時限

第四十二條 定役ニ服スル者ノ作業ハ刑名ニ因テ之ヲ斟酌シ每四一日ノ科程ヲ定メテ服役セシム滿十二歳以上十六歳未滿ノ者滿六十歳以上ノ者及ヒ病後ノ疲勞若クハ身軀ノ虛弱ニ因リ勞作ニ勝ヘサル者ハ體力ニ應ジ作業ノ科程ヲ寬恕ス  
若シ已ムヲ得ズ外役ニ服セシムルトキハ鐵鎖ヲ用テ二囚毎ニ聯絆シ笠ヲ用テ晴雨ヲ問ハス其面ヲ掩ハシム但外役ノ囚徒ハ一組十人以上十五人以下ト定メ看守一人押丁二人以上ヲシテ之ヲ監セシム外役ノ囚徒道路往來スル時ハ務メテ他人通行ノ妨ト爲ラサラシムルヲ要ス

參看(刑)第十九條 徒刑ノ囚六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免シ其

體力相當ノ定役ニ服ス

第二十二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十歳ニ滿ル者ハ第十九條ノ例ニ從フ

重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下トス

第四十三條 毎日囚徒ヲシテ役ニ就カシムルニ際シ悉ク之ヲ監房外ニ整列セシメ看守長及ヒ看守點檢ヲナスヘシ婦監セシムル時モ亦同シ

第四十四條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス父母ノ喪ニ遭フ者モ亦一日免役ス

一月一日 一月二日  
元始祭 孝明天皇祭

○第二款 第二節

紀元節

春季皇靈祭

神武天皇祭

秋季皇靈祭

神嘗祭

天長節

新嘗祭

十二月三十一日

第四十五條 囚徒ノ專習スヘキ工業ハ授業手若クハ工業殊等ノ囚チシテ之ヲ導カシム其刑期一年以下ノ者ニハ習熟シ易キ工業ヲ授ルヲ要ス

第四十六條 定役ニ服セサル囚徒ト雖モ典獄之ヲ勸誘シテ其將來ノ生業ヲ計リ攝生又ハ親屬扶助ノ爲メ勞作セント請フニ至ラシムルヲ要ス其工業ノ種別ヲ定ムルハ典獄ノ指示ニ依ル

未決監ニ在ル者坐作ノ業ヲ爲サント請フトキモ亦同シ

第四十七條 懲治人ニハ教誨ニ充ル爲メ服役時間表ニ準シ七時ニ過キサル時間(休憩時間ヲ除)農業若クハ工藝ヲ教ヘ力作セシムヘシ

時限

第四十八條 未決者及ヒ定服ニ服セサル已決囚ハ毎朝日出ノ頃起床シ各其監房ヲ掃除シ畢リ喫飯セシム又毎日一時間以內監房外ニ於テ運動ヲ許ス

第四十九條 定役ニ服スル者ハ毎朝日出ノ頃起床シ各其監房ヲ掃除シ畢リ喫飯セシム其起床ヨリ約テ一時間ヲ經テ役ニ就カシメ午前十時前後ニ至テ湯若クハ水ヲ與ヘ正午十二時ニ至リ休憩ス飯後暫時休憩シ再ヒ就役日没前罷役セシム其時間ハ別表ニ之ヲ定ム但時宜ニ由リ其時間ヲ伸縮スルヲ得

起床還房及ヒ就役罷役其他ノ動止ヲ令スルハ鈴若クハ柝ヲ以テシ全監一齊ニ動止セシム

第五十條 科程ヲ終リタル者ハ時限ニ拘ハラズ罷役セシム  
午飯ニ就カシムルノ際科程ノ大半ヲ爲シ得タルヤ否ヲ驗視スヘシ

若シ偷懶ニシテ怠役スル者ハ飯後ノ休憩ヲ許サス  
第二章 工錢

第五十一條 定役ニ服スル囚徒現役一百日ヲ經レハ始テ各自ノ工錢

ヲ料定シ之ヲ十分シテ其一分ヲ與ヘ餘分ハ之ヲ監署ニ收ム

定役ニ服セサル囚徒及ヒ未決者ニシテ作業スル者ノ工錢ハ十分シ

テ其三分ヲ監署ニ收メ其七分ヲ與フ定役ニ服スル囚徒ニシテ當日

ノ科程ヲ畢テ仍ホ作業スル者ノ科程外ノ工錢ハ之ニ準ス

參看(刑)第二十五條 定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ

其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス但現役

百日以内ハ給與ノ限ニ在ラス

第五十二條 尊屬親ノ情願ニ由リ懲治場ニ入タル者其尊屬親ヨリ衣

食費ヲ自辨スル者ノ工錢ハ其全分ヲ與ヘ衣食費ヲ自辨スルヲ能ハ

サル者及ヒ刑期滿限ノ後頼ルヘキ所ナクシテ監署傍ノ別房ニ留置

シタル者ハ其工錢ノ内ヨリ衣食費ヲ扣除シ餘分ハ之ヲ與フ

第五十三條 在監人ニ與フヘキ工錢ハ監署ニ領置シ毎月ノ首ニ於テ

其前月ノ總計金額ヲ本人ニ知ラシムヘシ

第五十四條 各種ノ工錢ハ其地普通ノ傭工錢ヲ準トシ各自ノ技能ニ

應シ一日若干錢ト定ムヘシ

第五十五條 監署ニ領置ノ工錢ハ本人ノ請ニ由リ親屬ニ贈與スルヲ

許シ又ハ書籍其他必要ノ物品及ヒ第六十九條ニ從ヒ食物ヲ購ヒ之

ヲ給スルヲ得

第五十六條 在監人死亡シ監署ニ領置ノ工錢アルトキハ親屬ニ下付

ス親屬ナキトキハ遺骸ヲ領取シタル故舊ニ下付ス若シ下付ヲ受ヘ

キモノナキトキハ之ヲ沒收ス

第五十七條 在監人若シ逃走シタルトキハ已決囚ノ工錢ハ之ヲ沒收

ス未決者及ヒ懲治人ノ工錢ハ其親屬ニ下付ス親屬ナケレハ之ヲ沒

○第二款 第二節

收ス

第三章 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒押送

第五十八條 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受タル者アルトハ其宣告書ノ  
謄書ヲ具シテ内務卿ニ申報シ其指揮ニ從ヒ警察遞傳ヲ以テ集治監  
ニ押送スヘシ

北海道集治監ニ於テ管束スヘキ徒流刑ノ囚徒ハ本監官吏ノ臨時派  
出シタル地マテ押送スヘキモノトス

第五十九條 北海道ニ在ル集治監ハ毎歲三四次官吏ヲ派出シ前條第  
二款ノ例ニ從ヒ押送シタル徒刑流刑ノ囚徒ヲ受取ヘシ

第六十條 徒刑流刑ノ囚徒ヲ押送スル時ハ戒具ヲ用ヒ男囚ト女囚ト  
ヲ別ツヘシ遞船中ニ在テハ戒具ヲ用ヒサルモ妨ナシ

第四章 假出獄免幽閉ノ者ニ貸與スル屋舎

第六十一條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者其地ニ居住スヘキ

家ナキトキハ屋舎ヲ貸與スヘシ

屋舎ヲ構造スルハ將來市街村落ヲ創置スルノ便ヲ計畫スルヲ要ス

第六十二條 假出獄免幽閉ヲ受ケタル徒刑流刑ノ者其配偶者又ハ其  
他ノ親屬ヲ招キ同居セント請フトキハ典獄將來營生ノ方法ヲ取糺  
シ之ヲ許否スヘシ

前項ノ請ヲ許ストキハ其配偶者又ハ其他ノ親屬現住スル地ノ戶長  
ニ通告スヘシ

其徒刑流刑ノ者嫁娶ヲ爲サントスルトキハ監署ニ申告セシメ典獄  
之ヲ許否スヘシ

第三編

第一章 給與

第六十三條 已決囚ノ獄衣類ハ總テ之ヲ貸與ス

第六十四條 未決者ノ衣類ハ總テ自辨トシ臥具ハ之ヲ貸與ス若シ臥

○第二款 第二節

具ヲ自辨セント請フ者ハ之ヲ許ス貧困ニシテ衣類ヲ自辨スルヲ能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

第六十五條 已決囚ノ獄衣ハ赭色トシ懲治人ノ衣服ハ淺葱色トス

第六十六條 獄衣ハ総テ筒袖トシ長短二種ニ別ツ男ノ通常服ハ長衣

就役服ハ短衣トシ女服ハ総テ長衣トス

獄衣ノ外襟ニハ白布ヲ縫着シ之ニ番号ヲ墨書スヘシ

第六十七條 在監人ニ貸與スル衣類雜具

通常服

一 單衣

一 袴

一 綿入衣

一 襦袢

就役服

一 單短衣

一 袴短衣

一 綿入短衣

一 襦袢

一 股引

雜具

一 蒲團

一 蚊帳

一 莞筵

一 枕

一 帶 長三

一 褌 長三

一 手巾

一 裝  
一 笠

以上ノ貸與品ハ地方ノ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ澁濯補綴シテ其用ニ充ルヲ得

第六十八條 在監人一人一日ノ食糧

一 下白米十分ノ四七合 強キ力業ニ服スル者

一 同 輕キ力業ニ服スル者

一 同 工役ニ服セサル者及ヒ

一 同 滿十歳以上ノ未決者

一 菜 十歳未滿ノ幼者  
金一錢五厘以下

地方ノ便宜ニ依リ粟稗ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルコトヲ得

第六十九條 工業ニ勉勵シテ食費ヲ償フヘキ工錢ヲ得ル者及ヒ其幾

倍ヲ得ル者等ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之

ヲ給スルコトヲ得但一日金三錢ヲ過ルコトヲ得ス

定役ニ服セサル者ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購

ヒ之ヲ給スルコトヲ得但一日金五錢ヲ過ルコトヲ得ス

第七十條 在監人日用ノ雜費 澁濯補綴又ハ炊用ノ薪炭ハ一人一日金

一錢五厘以下トス

第七十一條 監房常置ノ器具

一 貯水器并飲器 木製

一 唾壺 向

一 便器 木製大小二種但監房ニ圓圖ノ

一 小箒 接續スルモノニハ此器ヲ用ヒス

一 洗手盆 草ノ種類ヲ以テ製作  
セシ軟カナルモノ  
木製

第七十二條 浴湯ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月マテハ五日毎ニ一次十

三三 月ヨリ五月マテハ十日毎ニ一次トス

四三一

第七十三條 已決囚及ヒ懲治人ノ髪ハ常ニ之ヲ短薙シ髭鬚アル者ハ常ニ剃除セシム但未決者ハ此限ニ在ラス  
婦女ノ梳髪ハ膏ヲ用ヒテ裝飾スルヲ許サス

第七十四條 衣類雜具其他ノ物品ハ種質ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ滌ヒ臭氣ヲ去リ蟲害ヲ防クヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ晒洗スヘカラス

第二章 病疾 附死亡

第七十五條 在監人疾病ニ罹レハ病狀ノ輕重ヲ料リ其監房若クハ病室ニ於テ醫療セシム

懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由リ其親屬ニ交附スルコトヲ得

第七十六條 病者ノ攝養ニ効アル飲食物又ハ温ヲ取ル湯婆等ヲ用ルコトヲ要スルトキハ醫師ヲシテ其旨ヲ證明セシメ典獄之ヲ考檢シテ許否スヘシ

第七十七條 傳染病侵襲ノ兆アルトキハ其消毒預防ヲ慎重ニスヘシ若シ在監人中傳染病者アルトキハ直ニ病性及ヒ感染ノ形狀ヲ詳悉シ醫師ノ診察書ヲ副ヘ各其所屬長官ニ報告スヘシ

死亡

第七十八條 在監人死亡スレハ典獄看守長醫師并蒞テ之ヲ驗屍スヘシ  
未決者又ハ已決囚ニシテ別故アリ再ヒ訊問ニ係ル者死亡シタルトキハ之ヲ其裁判所ニ申報スヘシ

五三一

第七十九條 死者ノ親屬若クハ故舊第三十三條ニ記載シタル時限ヨリ二十四時以内ニ在テ遺骸ノ下付ヲ請フトキハ之ヲ許シ其者ヲシテ簿冊ニ署名押印又ハ花押セシムヘシ  
遺骸ヲ請フ親屬故舊ナキトキハ棺ニ入テ假葬シ其上ニ氏名標ヲ建ツヘシ其標ハ約テ面三寸長三尺五寸トス

○第二款 第二節

第三章 書信

第八十條 已決囚其親屬故舊ニ信書ヲ贈ルハ六個月間ニ一次トシ一通ニ過ルコトヲ得ス但其他官司ノ訊問等ニ由テ書信ヲ要スルトキ又ハ親屬故舊ニ回答セント請ヒ司獄官吏ニ於テ法律ニ觸ルコトナク且必用ト認マルトキハ此限ニ在ラス

第八十一條 未決者ニ係ル信書ハ定限ナシ但預審判事又ハ檢事ノ檢閱ヲ經ルニ非レハ贈答セシムルヲ得ス

參看(治)第四百十條 密室監禁ノ場合ヲ除クノ外被告人ハ監獄則ニ從ヒ官吏ノ立會ニ依リ其親屬故舊又ハ代理人ニ接見スルヲ得

書翰書籍其他ノ書類ハ預審判事ノ檢閱ヲ經タル後ニ非サレハ被告人ト外人ト之ヲ授受スルヲ得サス但預審判事ハ其書類ヲ留置クヲ得

第八十二條 懲治人及ヒ幼年ノ已決囚其親屬故舊ニ贈ル信書ハ一個月一次トシ一通ニ過ルコトヲ得ス

第八十三條 在監人ノ發スル信書ハ典獄之ヲ檢閱スヘシ若シ書中忌諱ニ涉ル等ノ文意アルトキハ通信ヲ許サス

第八十四條 外人ヨリ在監人ニ贈リ來タル信書ハ典獄之ヲ檢閱シ適正ノ事項ヲ陳ヘ又ハ遷善ノ諭示ヲ主トシタルモノニ限り之ヲ本人ニ付與ス若シ監在人ノ改悛ヲ妨ルモノト認ルトキハ之ヲ付與セス

第八十五條 信書ヲ檢閱スルニハ先ツ直行ヲ順讀シ次ニ逆讀斜讀又ハ横讀シ嫌疑ノ文意アリヤ否ヲ詳查スヘシ

第八十六條 在監人ヨリ發スル信書ハ必ス書信紙ヲ用ヒシメ典獄之ヲ緘シ封皮ニ其受領スヘキ者ノ住所氏名ヲ書シ某監獄署ト記シ之ヲ遞送ス但郵便稅ハ自辨セシム

親屬故舊若シハ辨護人ノ信書ハ監獄署ニ宛之ヲ差出サシムヘシ

○第二款 第二節



第四章 接見

第八十七條 在監人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄先ツ之ニ面接シテ其氏名族籍營業等ヲ訊ヒ其緣由ヲ詳悉シ己ムヲ得サルノ事狀アリテ形跡ノ疑フヘキイナキトキハ之ヲ許シ看守長看守并蒞テ面會セシム但密室ニ在ル者ハ接見ヲ許サス

面會ノ時間ハ三十分時ヲ過ルヲ得ス若シ面會ヲ請ヒシ旨趣ニ違フ談話ヲナシタルトキハ直ニ之ヲ停止ス

參看(治)第四百四十四條密室監禁ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ一名毎ニ之ヲ別室ニ置キ預審判事ノ允許ヲ得ルニ非サレハ他人ト接見シ又ハ書類貨幣其他ノ物品ヲ授受スレトテ許サス

食物飲料藥餌其他監倉ヨリ給スヘキ物品ト雖モ監倉長ノ特ニ指名シタル者ヲシテ之ヲ給與セシム

第八十八條 死刑ノ執行及ヒ徒刑流刑禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒ヲ集治

監ニ押送ノ以前親屬故舊其囚徒ニ面會セント請フトキハ前條第一項ノ例ニ依テ之ヲ許ス但面會時間ハ五十分時ヲ過ルヲ得ス

第五章 差入品

第八十九條 未決者及ヒ懲治人ニ其親屬故舊ヨリ書籍用紙衣服臥具又ハ飲食物炊烹ヲ要セサルモノニシテ贈ラント請フトキハ之ヲ許ス但酒又ハ煙草其他攝生ニ害アルモノハ此限ニ在ラス

第九十條 已決囚ニハ書籍用紙ノ外一切差入品ヲ許サス

第九十一條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者親屬故舊ヨリ金錢衣服家具等ノ寄贈ヲ受ゾルトキハ其旨ヲ典獄ニ申告セシムヘシ

第四編

第一章 教誨

九三一 第九十二條 已決囚及ヒ懲治人教誨ノ爲メ教誨師ヲシテ悔過遷善ノ道ヲ講セシム

○第二款 第二節

第九十三條 教誨ハ免役日又ハ日曜日ノ午後ニ於テ其講席ヲ開クモ  
ノトス

第九十四條 懲治人ニハ毎日三四時間讀書習字算術度量圖畫等ノ科  
目中ニ就キ之ヲ教フヘキモノトス

學科ハ懲治場ノ教場ニ於テ之ヲ研究セシメ其學業ノ進歩ヲ表スル  
爲メ就學ノ年月卒業ノ科目學業ノ優劣及ヒ行狀ノ良否氏名年齢等  
ヲ簿冊ニ記載シ巡閱官吏ノ檢閲ニ供シ又ハ其尊屬親ニ示スコトア  
ルヘシ

第九十五條 各監房内ニ左ノ諸款ヲ揭示シ傍訓釋義シテ解シ易カラ  
シムヘシ若シ文字ヲ識ラサル者アレハ入監ノ時ヨリ二十四時内ニ  
於テ之ヲ讀ミ聽カスヘシ

揭示

一在監人ハ常ニ教令ヲ謹守スヘシ

一平日互ニ和順ヲ主トシ教誨聽聞ノ席ニ就クトキハ慎テ容止ヲ正  
フスヘシ 未決監ニハ 此款ヲ除ク

一毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及ヒ席壁  
廁間等ヲ掃除スヘシ

一窓壁若クハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外ニ唾キ貯水ヲ濫用スルヲ禁  
ス

一監外ニ出ダル時其途上ニ於テ同往ノ者ト交談シ及ヒ手ヲ交ヘ或  
ハ路人ニ聲語スルヲ禁ス

一夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ說話或ハ發聲又ハ濫リニ起歩スルヲ禁  
ス但晝間ト雖モ放歌喧噪又ハ高聲ニ誦讀スルヲ禁ス

一許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ競ヒ若クハ賭博類似  
ノ惡戯ヲナシ或ハ同房ノ者ニ汚辱ヲ被ラシメ猥褻ニ涉ルカ如キ  
所爲アルヲ禁ス

○第二款 第二節

- 一 服役中其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ及ヒ休憩ノ時間部外ノ工場ニ至ルヲ禁ス 此款ヲ除ク
- 一 許可ヲ得スシテ衣食其他ノ物件ヲ受與貸借スルヲ禁ス
- 一 監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ラス直ニ看守所ニ通聲スヘシ
- 一 日没後ハ發病スルモ其症急劇ナルコト非レハ翌朝ニ至テ醫療ヲ乞フヘキモノトス若シ劇症ナルトキハ直ニ看守所ニ通聲スヘシ
- 一 獨居ノ者卒カコ病ヲ發シタルトキハ監房ヨリ看守所ニ架スル所ノ響器繩ヲ引キ以テ之ヲ報スヘシ
- 一 病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保ニ力ヲ致スヘキハ勿論其看病人ヲラシムル者ハ切實ニ之ヲ看病スヘシ
- 一 水火風震等ノ際解放ニ遭フ者ハ其解放ノ時ヨリ二十四時内ニ監獄署又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ツヘシ

右ノ諸款ニ違フ者及ヒ違フ者アルヲ知テ告ケサル者又ハ官吏ヨリ犯者ヲ問フニ當リ之ヲ擧ケサル者ハ其情狀ヲ量リ處分スヘキモノナリ

年月日 某監獄署

第二章 賞譽

- 第九十六條 已決囚獄則テ謹守シ且改悛ノ行爲著キ者ト典獄ニ於テ確認スルトキハ之ヲ賞譽スヘシ
- 第九十七條 賞譽セシ者ニハ賞譽セシ毎ニ之ヲ表スル爲メ獄衣ノ左袖ノ臂間ニ方二寸曲ノ淺葱色ノ布ヲ縫着スヘシ
- 第九十八條 賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ考據ト爲スヲ得

- 第九十九條 賞表ヲ得タル者ニハ二個月ニ一次親屬故舊ニ接見及ヒ通信スルヲ許ス

○第二款 第二節

四四一

第一百條 已決囚若シ在監人ノ逃走ヲ密告又ハ捕得シ或ハ監獄ニ係ル水火災ヲ防禦シ人命ヲ救援シタル者アレハ金二十五錢以下ヲ賞與シ其賞金ハ監署ニ領置シ本人ノ請ニ由リ必用品又ハ食物ヲ購求スヘシ但第九十七條ノ賞表ヲ與フルノ限ニ在ラス

第一百一條 未決監ニ在ル者前條ノ勞動アルトキハ之ヲ録シテ檢察官及ヒ裁判官ノ參考ニ供スヘシ

第三章 懲罰

第一百三條 已決囚獄則チ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 絕信 親屬故舊ト書信接見ヲ絶ス

二 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ工場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ服

役時限表ニ照シテ座作ノ役ヲ科ス

三 減食 常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ盥湯二品ノ外菜ヲ與ヘス

四 閤室 閤室ニ入レ常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ盥湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ禁ス

第一百四條 絕信屏禁ハ有限若クハ無限ト爲レ減食閤室ハ七晝夜ヲ限トス

減食閤室七晝夜ニ滿ルモ改悛ノ狀ナキトキハ一旦之ヲ免シ更ニ之ヲ科スルコトヲ得

第一百五條 懲治人及ヒ十六歳未滿ノ已決囚獄則チ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 獨愼 晝夜一室ニ獨居セシム

二 減食 常食ノ半以內ヲ減ス但菜ヲ減スルノ限ニ在ラス

○ 第二款 第二節

五四一

六四一

第六條 獨愼ハ七晝夜以内減食ハ三日以内トス

第七條 未決者及ヒ拘留ノ刑ヲ受ケン者教令ニ順ハス或ハ同監ノ者ヲ煽惑シ又ハ其他ノ規則ヲ犯ストキハ所犯ノ輕重ヲ量リ第三百條第五條ニ準擬シ減食スルコトヲ得

第八條 賞表ヲ有スル者處罰ヲ受クルトキハ賞表一個又ハ數個ヲ褫奪ス

第九條 無期徒刑ノ囚徒逃走シ若クハ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シ其他重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ三月以上五年以下兩脚又ハ一脚ニ鈇ヲ施シ仍ホ鈇ヲ屬シタル鉄索ヲ其鈇ニ貫キ腰間ニ綴帶セシメ綴帶ノ所ニ下鍵ス但監房ニ在ルモ晝間ハ之ヲ施スモノトス

若シ再ヒ重罪ヲ犯シタルトキハ五年以上十年以下前項ノ例ニ照シテ處罰ス

鉄丸ノ量ハ二百目以上一貫目以下トシ被罰者ノ體力ニ應ジテ之ヲ施ス丸ハ索尾ニ屬シ地上ヲ轉ハスモノトス其外役ニ服スルトキハ鉄丸ヲ除キ二人聯絆ノ法ニ從フ

參看(刑)第四百十二條 已決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上六月以

下ノ重禁錮ニ處ス

若シ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シテ逃走シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁禁ニ處ス

第十條 減食或ハ閤室ノ罰ニ處スヘキ者アルトキハ醫師ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキヲ証シテ後之ヲ行フヘシ

第十一條 減食或ハ閤室又ハ獨愼ノ罰ニ處シタル後ハ典獄若クハ看守長時々其動靜ヲ觀察シ狀況ニ由リ醫師及ヒ教誨師ヲシテ之ヲ問ハシムルコトアルヘシ

七四一

第十二條 罰則ニ處セラレタル者改悛ノ狀著ル、トキハ之ヲ免ス

○第二款 第二節

ルコトヲ得  
第十三條 假出獄免幽閉ヲ受ケタル徒刑流刑ノ者監署ノ命令ニ違  
背シタルトキハ七日以下之ヲ拘置スルコトヲ得

身 材	入 場 ノ 事 狀	入 場 ノ 年 月 日	親 屬	懲 治 人 及 ヒ 尊 屬 ノ 營 業	年 氏 族 出 本 生 管 地 籍 名 齡	(典獄(檢印)) 懲治人名籍	主 檢 書 記 (氏 名 印)
						何國郡村町産 國郡村町番地住何某 族籍 何某 某年某月某日生 當何年何月何年何月	
長何尺何寸何分肥瘠強弱		明治何年月日午前後第何時入場	父母兄弟及ヒ配偶者等ノ有無	懲治人ノ營業 主關者タル尊屬親ノ營業			

〔此括弧ヲ付スル者及ヒ下段ハ總テ朱字以下同シ〕

容貌音聲	面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑瘰癧子 瘰癧黒痣癩風天黥創瘻ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス コブホクロナシキツ
教育門及	入場ノ時文字ヲ知ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得ルハ善ク讀書ヲナス 入場後進學ノ景況 何宗或ハ宗門不詳
入場中ノ賞罰	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ
書信贈答ノ月日	何年月日何國郡村住親屬若クハ朋友ニ書信來發
懲治場ニ留置ノ宣告ヲナセシ裁判所	明治何年月日何日某裁判所ニ於テ若干年月日留置ノ宣告
糞ニ處斷ヲ經ル者ナル時ハ其事由	犯由ノ大畧及ヒ某裁判所
事變	明治何年月日病死或ハ變死或ハ逃走或ハ他監ニ移ス
放還	明治何年月日某家ニ放還

本出生地管	某管下國郡村番地住又ハ何某子弟妻女
氏族管	何國郡村産
年氏族	何某年某月某日生 某年何月何年何月
營業及ヒ親屬	營業ヲ詳記ス可シ 父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無
乳兒提携	男或ハ女 收監ノ時何歳何ヶ月
入監ノ年月日時及ヒ事件	明治何年月日午後第何時入監 何罪ヲ犯ス
身材	長何尺何寸何分肥瘠強弱
容貌音聲	面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑瘰癧子 瘰癧黒痣癩風天黥創瘻ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス コブホクロナシキツ

(典獄(檢印))

未決者名籍

主檢

書記(氏名印)

終 結	事 變	責保 付釋	當該官ノ氏名	書信ノ贈答 ヲ許ス月日	入監中ノ賞罰	教 育 宗 門 及
又ハ他監押送	明治何年月日放免若クハ刑ノ宣告執行	明治何年月日保釋若クハ責付	裁判長ノ氏名死刑ハ裁判長ノ外其行刑ヲ臨監セシ官吏ノ氏名	明治何年月日何國郡村住親屬若クハ朋友ニ書信發來	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ	文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス 何宗或ハ宗門不詳

犯由ノ大畧 及ヒ犯數	收監ノ年月日	刑名及ヒ宣告 ノ月日裁判所 ノ名稱	乳 兒 提 携	營業及ヒ親屬	年氏族出本 齡名籍地管 生	(典獄(檢印)己決囚名籍 主檢 書記(氏名印)
財物ヲ竊取シ或ハ人ヲ毆傷スル等犯罪ノ大畧ヲ記ス若シ再 三犯ナレハ往年何罪ヲ犯シ某裁判所ニ於テ何刑ニ處セラレ	明治何年月日午 後第何時入監	何刑若干年月日 明治何年月日何裁判所ニ於テ宣告	男若クハ女 收監ノ時何歳何ケ月 父母ニ先チテ出監シ或ハ死去シタルトキハ之ヲ詳記ス	營業ヲ詳記ス可シ 父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無	何國郡村産 某管下國郡村番地住又ハ何某子弟妻女 族籍 何某年月日生 某何年何月何年何ケ月	



身 材	長何尺何寸何分肥瘠強弱
容 貌 音 聲	面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑、瘰癧、癩子、癩癧、黑痣、癩風、天鰲、創瘻ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス <small>コブ、ホソ、ナマシ、アサ、キツ、アト</small>
教 育 及 宗 門	文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス 何宗或ハ宗門不詳
入 監 中 ノ 賞 罰	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ
書 信 贈 答 ノ 年 月 日	明治何年月日何國郡町村住親屬若シハ朋友ニ書信來
假 出 獄 免 幽 閉	明治何年月日何月何日假出獄或ハ免幽閉
事 變	明治何年月日病死或ハ變死或ハ脱監 或ハ刑罪ヲ犯シ復タ未決監ニ入ル
終 結	明治何年月日滿期放免又ハ特赦

假出獄之證票

某管下國郡町番地住又ハ何某子弟妻女

族 籍

何 某 年 月 日 生

明治何年何月何年何月

身 材 名籍ノ様本ニ倣  
ヒ詳記スヘシ

容 貌 上ニ全シ

罪 質 犯 數

刑 名 刑 期

及ヒ附加刑

何年月日某裁判所ニ於テ宣告ヲ受  
ケ何年月日ヨリ執行何年月日滿期

一此者ハ假出獄ノ裁可アリタルヲ以テ本日出獄ヲ許シ何地ヲ通過シ居住スヘキ何  
地ニ約テ何日迄ニ到着シテ即時其地ノ警察官ニ届出テ此證書ヲ納メタル上住宅  
ヲ定ムヘキ旨申渡シタル事

- 一此者ハ本刑期限閉特別監視ニ付セラレタル事
- 一此者假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯スコトアルキハ直ニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレサル事
- 一此者發病其他ノ事變ニ因テ途中ニ滯留スルトキハ滯留地ノ警察官ヨリ其證書ヲ受ケ居住地ニ到着ノ上此證書ト共ニ居住地ノ警察官ニ差出スル旨申渡シタル事  
右之通心得サセ假出獄ノ證書ヲ與フル者也

明治何年 月

署 日 印

某 監 獄 署

長 官 何 某

印

○假出獄ヲ受タル者所有金アルトキハ此證書ノ裏面若クハ欄内ニ左ノニ款ヲ附記スヘシ

- 一此者ノ所有金ハ當監督ヨリ其居住スヘキ地ノ警察官ニ送り遣シタル事
- 一警察官ニ送り遣シタル金圓ハ其居住地ニ到着ノ後何日ニテモ受取得ヘキト雖モ同官ニ於テ正當ノ入用ナリト認定ノ上ニ非レハ一次ニ之ヲ渡サ、ルヘキ事

何 管 下 某 監 獄 署 ○ 在 監 人

- 一在監人ヨリ其親屬故舊ニ送ル書信ハ此紙ニ書寫スヘシ
- 一書信ノ文句規則ニ背キタルコトアルトキハ其送致ヲ止メ仍ホ相當ノ罰ニ處スルコトアルヘシ

日 月 年 治 明 ○ 紙 信 書

[Blank page with faint horizontal lines]

[Blank page]

囚徒服役時限表

月名	時限	起	床	就	役	小	憩	午	飯	罷	役	晚	飯
一月	午前七時〇二分	午前八時〇二分	午前九時	正午	午後三時三十分	一時二十八分間							
二月	六時三十八分	七時三十八分	第十時	正午	午後三時三十分	一時三十二分間							
三月	六時〇六分	七時〇六分	第十時	正午	午後三時三十分	一時三十二分間							
四月	五時三十二分	六時三十二分	第九時四十分	正午	午後三時三十分	一時三十二分間							
五月	五時〇一分	六時〇一分	第九時三十分	正午	午後三時三十分	一時三十二分間							
六月	四時四十九分	五時四十五分	第九時	正午	午後三時三十分	一時三十二分間							
七月	四時五十分	五時五十一分	第九時	正午	午後三時三十分	一時三十二分間							
八月	五時十六分	六時十六分	第九時	正午	午後三時三十分	一時三十二分間							
九月	五時四十八分	六時四十八分	第九時五十分	正午	午後三時三十分	一時三十二分間							
十月	六時二十二分	七時二十二分	第十時	正午	午後三時三十分	一時三十二分間							
十一月	六時五十二分	七時五十二分	第十時	正午	午後三時三十分	一時三十二分間							
十二月	七時〇八分	八時〇八分	第十時	正午	午後三時三十分	一時三十二分間							

約テ日出ノ時刻  
 刻トナラズ然ルニ  
 年々季節ニ早晚  
 アリ日々分秒ニ  
 差刻アリ加ルコ  
 東國西國ノ別  
 此ニ由テ何レ  
 ノ地方ニ於テモ  
 分秒ノ差異ナキ  
 月毎ニ大約之  
 ナ平均ニテ姑ク  
 其起床時刻ヲ登  
 載ス各地ノ司獄  
 官此表ノ區別ヲ  
 準トナシ宜ク裁  
 酌シテ役囚ヲ遇  
 スヘシ

右ノ時間ニシテ  
 工器ヲ併理シ及  
 ビ盥浴等ヲ爲サ  
 レム

徒服役時限表

役	小憩	午飯	罷役	晚飯	還房	服役時間合計
時〇二分	午第十時ヨリ 前十分時間	正十二時ヨリ 午五十分時間	午三時三十分	一時二十八分間	午 後四時五十八分	六時二十八分間
時三十八分	第十時ヨリ 十五分時間	十二時ヨリ 一時時間	三時五十分	一時三十二分間	五時二十二分	六時五十七分間
時〇六分	同	同	四時	一時五十四分間	五時五十四分	七時三十五分間
時三十二分	第九時四十分時 ヨリ二十分時間	同	四時三十分	一時五十五分間	六時二十八分	八時三十八分間
時〇一分	第九時ヨリ 三十分時間	十二時ヨリ 一時二十分時間	五時	一時五十八分間	六時五十八分	八時五十九分間
時四十五分	同	十二時ヨリ 二時時間	五時二十分	一時五十四分間	七時十四分	九時〇五分間
時五十一分	同	同	五時十分	一時五十九分間	七時〇九分	八時四十九分間
時十六分	同	同	四時五十分	一時五十四分間	六時四十四分	八時〇四分間
時四十八分	第九時五十分時 ヨリ二十分時間	十二時ヨリ 一時時間	四時二十分	一時五十一分間	六時十一分	八時十二分間
時二十二分	第十時ヨリ 十五分時間	同	三時四十分	一時四十九分間	五時三十七分	七時〇三分間
時五十二分	同	同	三時二十分	一時四十八分間	五時〇八分	六時十三分間
時〇八分	第十時ヨリ 十分時間	十二時ヨリ 五十分時間	同	一時三十二分間	四時五十二分	六時十一分間

右ノ時間ニシテ  
工器ヲ併理シ及  
ヒ餐浴等ヲ爲サ  
トナス  
約テ日没ノ時刻  
ヲ以テ入蓋ノ時

第三節 第八十二号 明治十四年 官省院使  
九月二十日 廳府縣

司法官吏ヨリ 巡查及ヒ兵員ヲ要求使用スルハ左ノ手續ニ從フヘシ此  
旨相達候事

第一條 裁判官檢察官及ヒ司法警察官治罪法ニ從ヒ檢証物件差押其  
他職務ヲ行フニ當リ必要ナル時ハ警察署又ハ憲兵屯營ニ照會シテ  
巡查又ハ憲兵卒ヲ使用スルヲ得

第二條 前條ノ場合ニ於テ事緊急重要ニ涉ル時ハ直チニ鎮臺又ハ分  
營ニ照會シテ兵力ヲ要求スルヲ得

第四節 第八十六号 明治十四年 警視廳府縣  
十月四日 (東京府ヲ除)

九五一  
治罪法實施ニ付テハ大審院其他各裁判所公庭取締ノ使用ニ供スルヲ  
ノ其院長所長ノ照會ニ應シ一名又ハ數名ノ巡查爲相詰又拘留被告人  
審問中ハ其護送ノ巡查或ハ押丁ヲシテ守卒トシ公庭ニ入り看護セシ  
ムヘシ此旨相達候事

○第二款 第三節 第四節

參看(治)第二百六十五條 被告人ハ公廷ニ於テ身體ノ拘束ヲ受ケル  
ルヲ得但守卒ヲ置クコトアルヘシ  
禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人疾病アルニ非スシテ出廷  
ヲ肯セサル時ハ之ヲ引致スルコトヲ得若シ出廷シテ辨論ス  
ルコトヲ肯セサル時ハ對審トシテ裁判言渡ヲ爲ス可シ

第三款 布達

第一節 司法省甲第五号 明治十四年十月十日  
新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ  
爲サシムル儀モ可有之候條此旨布達候事

參看(治)第六十條 東京警視本署長及ヒ府縣長官ハ各其管轄地内ニ  
於テ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スルコト付キ檢事ト同一

ノ權ヲ有ス但東京府長官ハ此限ニ在ラス

左ニ記載シタル官吏ハ檢事ノ補佐トシテ其指揮ヲ受ケ第  
三編ニ定メタル規則ニ從ヒ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査  
ス可シ

- 一 警視警部
- 二 區長郡長
- 三 治安判事

四 警部ノ在ラサル地ノ戶長  
第二節 司法省甲第七号 明治十四年十二月二日

治罪法第三百十五條裁判言渡ノ謄本又ハ其拔書ヲ求ムル者ハ其用紙  
一枚金三錢ノ費用ヲ上納スル儀ト可心得此旨布達候事

參看(治)第三百十五條 訴訟關係人ハ其費用ヲ以テ裁判言渡書ノ謄  
本又ハ其拔書ヲ求ムルコトヲ得但上訴ノ爲メ其求ヲ爲シ

第三款 第一節 第二節

第四款第十  
六節參照ス  
ヘシ

ル時ハ書記ヨリ二十四時内ニ之ヲ下付ス可シ

第三節 司法省甲第八号 明治十四年十二月二日

大審院諸裁判所所屬代理人規則別紙ノ通相定候條此旨布達候事

所屬代理人規則

第一條 治罪法中所屬代理人ト稱スルハ大審院及ヒ各裁判所々在ノ地ニ住居スル免許代理人ヲ云

參看(治)第二百六十六條 被告人ハ辯論ノ爲メ辯護人ヲ用フルヲ得

辯護人ハ裁判所々屬ノ代理人中ヨリ之ヲ選任ス可シ但裁判所ノ允許ヲ得タル時ハ代理人ニ非サル者ト雖モ辯護人ト爲スヲ得

第二條 裁判官ノ職權ヲ以テ選任シタル代理人辯護人ハ正當ノ事由ヲ証明スルニアラザレハ之ヲ辭スルヲ得ス

參看(治)第三百七十八條 重罪裁判所長又ハ其委任ヲ受ケタル陪席

判事ハ公訴狀ノ送達アリタルヨリ二十四時ノ後書記ノ立會ニ依リ被告事件ニ付被告人ヲ訊問シ且辯護人ヲ選任シタリヤ否ヲ問フ可シ

若シ辯護人ヲ選任セサル時ハ裁判所長ノ職權ヲ以テ其裁判所々屬ノ代理人中ヨリ之ヲ選任ス可シ

被告人及ヒ代理人ヨリ異議ノ申立ナキ時ハ代理人一名ヲシテ被告人數名ノ辯護ヲ爲サシムルヲ得  
辯護人ヲ選任シタルヨリ三日後ニ非サレハ辯論ニ取掛ルヲ得ス

第四百二十一條 上告申立人及ヒ對手人ハ代理人ヲ差出ス

ヲ得

重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲シ又ハ檢察官ヨリ

○第三款 第三節第四節



重罪ノ刑ニ該ル可キ者トシテ上告ヲ爲シタル場合ニ於テ  
 刑ノ言渡ヲ受ケタル者自ラ代言人ヲ選任セサル時ハ院長  
 ノ職權ヲ以テ其院所屬ノ代言人中ヨリ之ヲ選任ス可シ  
 第三條 代言又ハ辨護受任中代言免許満期ニ至リ引續營業セス又ハ  
 廢業スト雖モ該事件終結ニ至ルマテ其代言辨護ヲ擔當スヘシ  
 第四條 代言又ハ辨護受任中ハ他ノ訴訟事件ヲ以テ其任ヲ闕クコト  
 得ス

第五條 裁判官ノ職權ヲ以テ代言人辨護人ヲ選任シタル場合ニ於テ  
 モ其謝金ハ被告人之ヲ擔當スヘシ  
 總テ謝金ニ付テハ出訴ヲ許サス

第四節 太政官第二号 明治十四年十月二十八日 (司法卿) 連署

第一款第六節參照ス

本年十月第五十三号布告ヲ以テ各裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ區畫改正  
 候ニ付テハ從前布告布達中上等裁判所トアルハ控訴裁判所地方裁判

所トアルハ始審裁判所區裁判所トアルハ治安裁判所ト改マリ候儘ト  
 心得ヘシ  
 右布達候事

第四款 司法省達

第一節 丙第十二号 明治十四年九月廿三日 警視廳府縣(東京) 府沖繩縣ヲ除ク

第一款第五節同第二十節參照ス

今般第四十八号ヲ以テ違警罪裁判ハ當分三府五港ノ市區ヲ除クノ外  
 府縣警察署又ハ警察分署ニ於テ裁判可致旨御布告相成候ニ付テハ各  
 警察署并ニ警察分署所在名稱及ヒ管轄區畫左ノ雛形通取調可届出此  
 旨相達候事

何警察署 違警罪 何郡何區何町何村  
 管轄 何郡同 同 同  
 何警察署 何分署 同前

第二節 丙第十三号 明治十四年十月十日 (警視廳府縣) (東京府ヲ除ク)  
 ○第三款 第四節 第四款 第一節第二節

第六一  
第三款第一節參照スヘシ

新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ不得止場合ニ於テハ巡查  
チシテ警部ノ代理ヲ爲サシメ不苦候條此旨相達候事  
但代理ヲ命スヘキ巡查ノ姓名ハ預メ其地方輕罪并違警罪裁判所  
通牒致シ置キ候儀ト心得ヘシ

第三節 丁第十六号 明治十四年 十月八日 大審院  
裁判所 裁判所

裁判所順次別紙ノ通相達候事  
裁判所順次

大審院

控訴裁判所

東京 大阪 長崎 函館 名古屋 宮城 廣島  
始審裁判所

東京 横濱 新潟 浦和 千葉 熊谷 土浦 木更津 杣木 宇都宮 前橋  
水戸 甲府 静岡 上田 長野 高田 濱松 松本 長岡 新發田 相川

以上東京控訴裁判所管内

京都 大阪 神戸 堺 奈良 和歌山 姫路 大津 園部 彦根 宮津 洲  
本 田邊 徳島 岡山 豊島 津山 脇町 高松 福井 金澤 富山 七  
尾 高知 松山 中村 宇和島

以上大阪控訴裁判所管内

長崎 佐賀 平戸 福岡 熊本 福江 中津 大分 天草 嚴原 鹿兒島  
宮崎

以上長崎控訴裁判所管内

函館 弘前 八戸

以上函館控訴裁判所管内

名古屋 岐阜 岡崎 安濃津 山田 高山  
以上名古屋控訴裁判所管内  
仙臺 磐井 福島 米澤 若松 山形 盛岡 白川 至 大曲 秋田 酒田

○第四款 第三節

七六一

以上宮城控訴裁判所管內

廣島 尾道 山口 濱田 松江 米子 鳥取 西郷  
以上廣島控訴裁判所管內

治安裁判所

日本橋 京橋 下谷 淺草 麴町 四ッ谷 芝 本郷 本所 品川 橫濱  
小田原 八王子 浦和 千葉 八日市場 熊谷 大宮 土浦 下妻 木更津  
朽木 宇都宮 前橋 高崎 太田 水戸 甲府 谷村 靜岡 沼津 下田  
上田 岩村田 長野 飯山 高田 糸魚川 濱松 掛川 松本 飯田 上諏  
訪 大町 福島 新瀉 長岡 柏崎 六日町 新發田 村上 相川

以上東京控訴裁判所管內

上京 下京 伏見 中ノ島 本田 天王寺 神戸 明石 篠山 堺 五條  
奈良 和歌山 姫路 大津 園部 福和山 彦根 宮津 洲本 田邊 徳島  
岡山 高梁 玉島 豊岡 津山 脇町 高松 丸龜 福井 大野 敦賀 小

濱 金澤 小松 高岡 富山 魚津 七尾 輪島 高知 松山 大洲 西條  
中村 宇和島

以上大阪控訴裁判所管內

長崎 島原 佐賀 唐津 平戶 福岡 久留米 小倉 熊本 山鹿 八代  
人吉 福江 中津 豆田 大分 佐伯 竹田 杵築 天草 嚴原 鹿兒島  
水引 大島 宮崎 都城 延岡

以上長崎控訴裁判所管內

函館 福山 江刺 壽都 弘前 青森 五所河原 八戸  
以上函館控訴裁判所管內

名古屋 熱田 一ノ宮 岐阜 大垣 御嵩 岡崎 豊橋 安濃津 四日市  
上野 山田 高山

以上名古屋控訴裁判所管內

仙臺 古川 石巻 大河原 磐井 福島 中村 米澤 若松 山形 新庄

○第四款 第四節

〇七一

盛岡 宮古 白川 平 大曲 秋田 本庄 能代 酒田  
以上宮城控訴裁判所管内  
廣島 三次 尾道 山口 岩國 赤間關 萩 濱田 松江 今市 米子 鳥取 西郷

以上廣島控訴裁判所管内

第四節 丁第十八号 明治十四年 大審院  
十月二十日 裁判所

書記局其他訟庭等ノ心得書別紙ノ通相達候事

書記局其他訟廷等ノ掌務心得書

第一條 書記局諸般ノ事務ハ各員輪轉之ヲ執リ預メ其主掌ヲ定メス

第二條 訟廷ノ取締被告人扣所ノ看守ハ巡查獄卒等ヲシテ之ヲ掌ラシムヘシ

第三條 訴訟口詰ハ雇員ヲ以テ之ニ充テ訴訟人呼入其他訟廷ニ關スル雜事ノ使用ハ小使ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第四條 門候ヲ置クト否トハ其廳ノ便宜ニ任ス若シ之ヲ置クトキハ雇員又ハ小使ヲ以テ之ヲ掌ラシムヘシ

但東京各裁判所ハ此限ニ在ラス

第五條 宿直ハ等外吏員雇員等ニテ之ヲ務メシメ在宅當番(退廳後)云フハ判任官ニテ順次之ヲ務メシムヘシ

但東京裁判所ハ此限ニ非ス

第五節 丁第二十一号 明治十四年十月十五日 大審院  
諸裁判所

法律上判事檢事書記等署名捺印ヲ要スル節相用フヘキ印章ハ左ノ雛形ニ照シ各自彫刻シ費用ハ官費支拂ニ相立候儀ト可心得此旨相達候事

官 勅任方九分曲尺  
氏名 奏任方七分曲尺  
判任方六分曲尺

一七一

書記ハ裁判所書記某ト刻ス字体ハ篆楷適宜タルヘシ但認メ易キヲ要

〇第四款 第五節第六節第七節第八節